



国語科



Japanese

＜全校研究主題＞

**自分のよさや可能性を広げ、
主体的に学びに向かうことのできる生徒の育成
～個別最適な学びと協働的な学びを通して～**

＜国語科の目標＞

言葉による見方・考え方を働かせ、言語活動を通して、国語で正確に理解し適切に表現する資質・能力を次のとおり育成することを目指す。

【知識及び技能】

社会生活に必要な国語について、その特質を理解し適切に使うことができるようにする。

【思考力、判断力、表現力等】

社会生活における人との関わりの中で伝え合う力を高め、思考力や想像力を養う。

【学びに向かう力、人間性等】

言葉がもつ価値を認識するとともに、言語感覚を豊かにし、我が国の言語文化に関わり、国語を尊重してその能力の向上を図る態度を養う。

＜生徒の実態＞

- ・ 語句の意味を正確に理解し、自分の考えを適切に表現するための語彙力が不十分であるため、自分の表現に自信がもてない。
- ・ 様々な表現の仕方を比べることでその表現のよさに気付くことができるが、それをどのように生かすとよいかまで考えることに弱さがあり、根拠をもって自分の表現に生かすことができている生徒が多い。
- ・ 自分の考えを率直に伝えることはできるが、自分の表現を見直し、練り直していくことに難しさを感じ、相手意識をもってよりよい表現にしようと自らの学びを調整することに弱さがある。

＜目指す生徒の姿＞

言葉による見方・考え方を働かせて表現の仕方やその効果について考え、仲間と学び合うことからさらに自分の言葉を繰り返し見つめ直し、より相手に伝わる表現にしようと吟味し、豊かに表現しようとする姿。

＜研究主題＞

自分なりの表現の仕方を追究する生徒の育成

＜研究仮説＞

学ぶ魅力や必然性を感じる題材や言語活動にすることで「自分の考えを伝えたい」という思いをもって学習に取り組めるようにする。そして互いの表現のよさを確かめ、広げたり深めたりしたうえで、考えを自分で見つめ直す場や交流の仕方を工夫することで表現を吟味する力を育む。さらに振り返りの視点や方法を工夫することで自己の変容や高まりが実感できれば、自分なりの表現の仕方を追究する生徒を育成することができる。

研究内容（１） 興味・関心を高め、学びの見通しをもつことができる導入の工夫	研究内容（２） 自分のよさや可能性を広げる学習活動の工夫	研究内容（３） 自分のよさや可能性に気付くことのできる振り返りの工夫
①学ぶ魅力や必然性を感じる題材の工夫 ②「目指す姿」を明確にするための導入の工夫	①これまで学んだ表現の仕方を積み上げた学びの足跡の提示 ②仲間のよさを確かめて広げたり、深めたりする交流方法と、さらに自分の表現のよさを確かめる場の工夫	単位時間や單元ごとの自己の変容や高まりが実感できる振り返りの工夫

自分なりの表現の仕方を追究する生徒の育成

1 研究仮説

学ぶ魅力や必然性を感じる題材や言語活動にすることで、「自分の考えを伝えたい」という思いをもって学習に取り組めるようにする。そして互いの表現のよさを確かめ、広げたり深めたりしたうえで、考えを自分で見つめ直したりする場や交流の仕方を工夫することで表現を吟味する力を育む。さらに、振り返りの視点や方法を工夫することで自己の変容や高まりが実感できれば、自分なりの表現の仕方を追究する生徒を育成することができる。

2 研究内容

<研究内容（1）>

興味・関心を高め、学びの見通しをもつことができる導入の工夫

①学ぶ魅力や必然性を感じる題材や言語活動の工夫

【2年生「魅力的な提案をしよう」の実践】

2年生の「話すこと・聞くこと」の単元では、相手意識をもって取り組むことができるように、「担任の先生が行きたくなるような郡上市のおすすめのコースを班ごとに考え、プレゼンする」という題材を設定した。「担任の先生」という身近な人を対象にすることで、相手の立場や考えを想定して話題を決めることができるようにした。また、プレゼン作成の導入時に、教師が資料のポイントや順番を変えたモデル提示を行い、その違いを話し合う活動を行った。こうすることで、同じ場所のプレゼンでも伝え方によって見え方が違うことが分かり、アピールしたい点を効果的に伝えるために構成をどのように考えていくとよいか見通しをもつことができた。

<研究内容（2）>

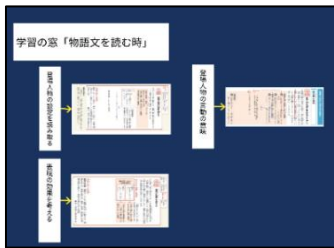
自分のよさや可能性を広げる学習活動の工夫

①これまで学んだ表現の仕方を積み上げた学びの

足跡の提示

【全学年共通】

教科書にはその学習を通して身につける力のポイントが「学習の窓」として具体的に示されている。それを積み上げていくことができるように、学習に関わる場所をその都度資料として生徒に配布している。生徒はロイロノートの中にその資料を領域ごとに分けて貼り付けている。こうすることで、学びの積



み上げが視覚化され、前回の学びが本時に生かせないかと資料を見ながら読み取りを行う姿が見られた。

①仲間の「よさ」を確かめて広げたり、深めたりする交流方法と、さらに自分の表現のよさを確かめる場の工夫

【3年生「握手」の実践】

3年生の「読むこと」の単元では、心情を読み取る際に、タブレットを用いての班交流の時間を設けた。このように班で意見をまとめていく活動を行うことで、互いの意見をタブレットに書き込み、キーワードをつなげたり消したりしながら意見を交流し、みんなで根拠を明らかにしながら読みを深めていくことができた。また、交流を自分の読みに生かすことができるように、仲間の意見を書き込むノートづくりの指導を行った。こうすることで、仲間から学んだこと、今後生かしたいことを具体的に振り返りに書く姿が見られるようになった。

<研究内容（3）>

自分のよさや可能性に気付くことができる振り返りの工夫

①単位時間や単元ごとの自己の変容や高まりが実感できる振り返りの工夫

【1年生「話の構成を工夫しよう」の実践】

1年生の「話すこと・聞くこと」の単元では、課題の達成度と原稿の完成度を書く欄を設けた振り返りカードを作成した。発表原稿の完成度の欄を設けたことで、今自分の原稿がどの程度完成しているのかが明確になり、次時への意欲にもつながった。また、本時が単元のどの位置にあるのかを確認しながら、見通しをもって学習に取り組む姿が見られた。単元の最後には、完成度を100パーセント以上にする生徒もいるなど、満足感が見られた。

完成度	達成度	完成度	達成度	完成度
75%	85%	50%	83%	21%

3 おわりに

「書くこと」や「話すこと・聞くこと」の学習では、単位時間の導入時に本時の課題に関わるモデル提示を行うことで、見通しをもって取り組む姿が見られるようになってきた。また、どの領域においても、振り返りカードの中に、仲間から学んだことや自己の変容を記す姿も少しずつ増えてきた。しかし、個人差が大きいため、生徒たちの中で自分に必要な手立てを選択して取り組んでいけるような方法を考えていきたい。

第2学年 国語科学習指導案

日 時:令和5年 11月2日(木)
第5校時 13:25~14:15
学 級:2年2組
場 所:2年2組教室
授業者:杜下 凌

1 単元名

論理を捉えて「根拠の適切さを考えて書こう 意見文を書く」(5/8)

2 単元について

本単元において、生徒には「書くこと」の力をつけさせたいと考えている。学習指導要領には「B 書くこと」について、以下のように書かれている。

B 書くこと

ウ 根拠の適切さを考えて説明や具体例を加えたり、表現の効果を考えて描写したりするなど、自分の考えが伝わる文章になるよう工夫すること。

自分の意見を相手に伝える場面は、日常生活の中で多く見られる。しかし、相手に納得してもらおうと考えたとき、その意見の根拠の適切さを吟味することが必要となる。「自分がただそう思うから」というだけでなく、客観的な事実や信頼性の高い情報を根拠にすることで、そこに説得力が生まれる。本単元では、指導事項の「ウ」に関わり、意見を支える根拠とはどのようなものか、何が自分の意見に説得力を与えるのか、その思考力を育てていきたい。本単元では、「吟味のポイント」として適切な根拠を述べるために「妥当性、客観性、具体性、信頼性」の4つの視点が必要であると捉える。

単元の題材は、「来年の郡上市未来会議につなげるために、郡上市を活性化させるにはどうしたらよいか、聞き手が十分に納得できる意見文を書く活動」を設定する。自分たちの住む地域について考えの根拠となることを具体的に書いたり、より効果的な語句や表現を選んだりすることで、より説得力のある文章を書くことを目指したい。

3 研究に関わって

(1) 研究内容(1)について

単元の導入においては、単位時間に身に付ける資質・能力の見通しをもたせる。単位時間ごとに学ぶ内容を示した単元カードを導入時に見せ、本時学ぶ内容が目指す姿にどう結びついているか実感させることで、学習内容の必然性を感じさせたい。加えて、実態に合わせたモデル提示を行うことで、「より相手に伝わる文章にしたい」という思いを引き出す。そこで本時では「吟味のポイント」を使った意見文の一部をモデルとして提示し、より説得力のある文章を書くためにどのような工夫をしたか尋ねることで、その思考の変容を考えさせる。

(2) 研究内容(2)について

本時においては、指導の個別化を図る手立てとして、「学習の窓」の活用、課題に合わせた資料の用意、学習スペースの設置を個に応じて実施していく。タブレットの中には、今まで生徒が学んできた重要な考え方を「学習の窓」として生徒自身が蓄えている。課題に合わせて用意した資料と合わせ、生徒が困り感に合わせて活用できるよう声掛けを行いたい。ペアやグループでの交流においては、互いの表現のよさを「吟味のポイント」に着目しながら話し合わせる。こうすることで、よりよい表現を目指して高め合うことができると考える。

(3) 研究内容(3)について

自分のよさに気付き、次時の学習につなげるための評価の工夫として、前時の文章と比べ、「吟味のポイント」に沿っていかに説得力のある文章になったかを振り返ることで、自身の学びの深まりや成長を明確に認識できると考える。加えて、本時の達成度を数値化することで自己の変容を実感させる。

4 単元指導計画

	知識及び技能	思考力、判断力、表現力等	学びに向かう力・人間性
単元の目標	意見と根拠、具体と抽象など情報と情報の関係について理解することができる。【(2)情報の扱い方に関する事項ア】	「書くこと」において、根拠の適切さを考えて説明や具体例を加えたり、表現の効果をj考えて描写したりするなど、自分の考えが伝わる文章になるよう工夫することができる。【B(1)ウ】	言葉がもつ価値を認識するとともに、読書を生活に役立て、我が国の言語文化を大切にjして、思いや考えを伝え合おうとする。
評価規準	意見と根拠、具体と抽象など情報と情報の関係について理解している。	「書くこと」において、根拠の適切さを考えて説明や具体例を加えたり、表現の効果をj考えて描写したりするなど、自分の考えが伝わる文章になるよう工夫している。	主体的に学習に取り組む態度 適切な根拠の在り方や表現の効果について粘り強く考え、今までの学習を生かして自分の考えが伝わる文章を書こうとしている。

単元を貫く課題:郡上市をより活性化させるにはどうしたらよいか、説得力のある意見文を書こう。

時数	主な学習内容	評価規準
1	<p>【課題】意見文に説得力をもたせるために、必要なことはなんだろう。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・地域社会で起きている問題を知ると共に、学習の見通しをもち、題材に対して書こうという意欲を高める。 ・適切な根拠の示し方が使われている例とそうでない例のモデル文を比較し、説得力を高めるために必要なことについて考える。 	<p>【主体的に学習に取り組む態度】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・説得力を高めるために必要な考えを具体的に示し、単元の見通しをもって学習に取り組んでいる。
2	<p>【課題】課題を決め、意見を支える根拠を書こう。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・地域社会で話題になっていることや、問題に感じていることから課題を1つ決め、自分の意見を明確にする。 ・意見に対しての根拠となる具体的な出来事や事実を集めてワークシートに整理し、まとめる。 	<p>【知識・技能】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・意見を支える根拠となる具体的な出来事や事実を書いている。
3	<p>【課題】説得力のある、文章の構成を考えよう。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ワークシート上の付箋に、意見と根拠を整理する。 ・前時までに学んだ「吟味のポイント」に着目させ、相手からの反論を想定した意見を書く。 ・仲間と交流しながら自分の主張の問題点を見つけ、その解決策となる意見を書き加えていく。 ・頭括型、尾括型、双括型をおさえ、簡単な構成メモをつくる。 	<p>【思考・判断・表現】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・相手から想定される反論に対する意見を、根拠と共に示している。 ・自分の伝えたいことを明確にして、主張と根拠を書くことができている。
4	<p>【課題】主張と根拠を明確にして、意見文を書こう。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・この段階では、構成メモやこれまで集めてきた情報を基にして、目的や意図に応じた表現にこだわらずに意見文の下書きを完成させることを目標とする。 	
5 (本時)	<p>【課題】仲間との交流を通して、意見文の根拠を吟味しよう。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・モデル文を読み、適切な根拠の在り方について考える。 ・グループで、「吟味のポイント」に基づいてより説得力を高めるにはどういった書きぶりになるとよいか話し合い、根拠を吟味する。 ・交流から分かったことを基に、意見文を修正する。 	<p>【思考・判断・表現】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・意見を支えるための適切な根拠を吟味し、説得力ある文章にしている。
6	<p>【課題】表現の効果をj考えて、意見文を推敲しよう。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・モデル文を読み、前時に示した適切な根拠の示し方だけでなく、読み手にどう伝わるか、という表現の効果も説得力につながることを気付かせる。 ・互いの意見文を交流し、効果的な表現の仕方について話し合い、意見文を推敲して仕上げる。 	<p>【主体的に学習に取り組む態度】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・表現の効果について粘り強く考え、自分の考えがより伝わる文章にしようと検討している。
7	<p>【課題】意見文を交流し、自分にない発想や表現を見つけよう。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・互いに意見文を読み合い、根拠の適切さや表現の効果などについて、相互評価と自己評価を行う。 ・説得力のある文章にするためにどのような工夫をしているか、どのような表現を使っているかを見つけ、「吟味のポイント」に沿って仲間にメッセージを書く。 	<p>本時は、【思考・判断・表現】B(1)オに基づいて学習状況を捉え指導を行うが、単元の目標とはしていないことから本単元の評価には含めない。</p>
8	<p>【課題】学習を振り返り、来年度の郡上市未来会議に繋げていきたいことをまとめよう。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学習を通して学んできたことを振り返り、自分の考えの深まりについてまとめる。 ・郡上市を活性化させるために出てきた仲間の考えについて話し合い、来年度の郡上市未来会議に繋いでいきたいことを考える。 	<p>【主体的に取り組む態度】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・説得力ある文章を書くために学んだこと、工夫したことを自分の言葉で振り返っている。

5 本時のねらい

仲間との交流を通して自分の意見を支えるための適切な根拠を吟味し、説得力のある文章にすることができる。

6 本時の展開(5/8時間目)

	主な学習活動	研究内容(1)(2)(3)と関わって
導入	<p>1 本時の見通し</p> <ul style="list-style-type: none"> 単元カードを確認し、本時で目指す姿を明確にする。 提示されたモデル文をもとに、「吟味のポイント」に沿ってどのように修正できそうか考える。 モデル文における意見を支える適切な根拠の在り方を捉え、本時学ぶ吟味の見通しをもつ。 	<p>研究内容(1)(2)(3)と関わって</p> <p>【研究内容(1)】 導入時に単元カードを示し、本時に身に付ける資質・能力の見通しをもたせることで、「根拠の適切さ」を考えるとという本時のねらいを明確にする。また、モデル提示を行うことで、「より説得力のある文章にしたい」という意欲を引き出す。</p> <p>【研究内容(2)-①・②】 意見文の交流時と、修正時に次のような手立てを行い、生徒が課題解決するために選択できるようにする。</p> <p>①交流時 交流する前に「吟味のポイント」について、自分はどの視点で見てほしいか共有することで、よりよい表現を目指して話し合えるようにする。ただの教え合いにならないように、「吟味」という言葉の意味について交流前に確認を行う。</p> <p>②意見文の修正時 【吟味の仕方が分からない】 今まで授業で示してきた意見を支える根拠の在り方や効果的な根拠の示し方を、タブレットでいつでも見ることができるようになる。</p> <p>【根拠となる情報が足りない】 資料となる本や記事を、いつでも活用できるようにする。選んだテーマごとにタブレットにも資料を用意し、選択して活用できるようにする。</p> <p>【仲間や先生からアドバイスがほしい】 教室に、仲間が集まって相談をする学習スペースをつくり、相談しながら学べるようにする。また、仲間からの感想について相談しながら書けるよう、グループ隊形で行う。</p> <p>【研究内容3】 本時では振り返りシートを活用して、以下の二点を振り返る。</p> <p>①課題に対する達成度 ②本時に学んだこと 振り返りシート内に本時身に付ける資質・能力を示しておくことで、文章の変化と重ねながら自己の高まりを実感することができる。</p>
	<p>「この意見文では、説得力を高めるためにどのような書き方の工夫をしているだろう。」 「赤の部分は、後から書き足された部分だが、どうして書き加えたのだろう。」</p> <p>2 課題の確認</p> <p>説得力を高めるために、意見文の根拠が適切か吟味しよう。</p> <p>3 意見文の交流</p> <ul style="list-style-type: none"> 教師とのやり取りの中で、交流することで自分の文章をよりよくしていけそうだと、という意識をもつ。 仲間の意見文を読み、「吟味のポイント」をもとにアドバイスや感想、印象を書き込む。 グループ交流を通して、より説得力を高めるにはどのような書きぶりに改めるとよいかを吟味し、話し合う。 <p>【吟味のポイント】</p> <ul style="list-style-type: none"> 妥当性…挙げられた事実に例外はないか、意見は全ての場合に当てはまるか 客観性…反論を想定して述べているか(～という意見も考えられるが…)、主観的な情報や推測を根拠としていないか 具体性…データに具体的な名称や数値が使われているか(37%の人が…)、意見と根拠をつなぐ考えを具体的に示しているか 信頼性…信頼性に欠ける情報を省いているか、情報源を明らかにしているか(郡上市役所の調査によると…)、複数の事実を根拠や統計結果を根拠として示しているか 	
展開	<p>4 意見文の修正</p> <ul style="list-style-type: none"> 交流の中で出てきた自分へのアドバイスをもち、自分で課題解決の方法を選択して意見文を修正する。 <p>「自分は仲間からのアドバイスをもち、どの書きぶりが文章に適しているか吟味しながら修正する。」 「自分は、適切な根拠を示すための情報が不足していると考えたので、タブレットや本を活用してもう少し情報を集めてから修正を行う。」 「自分は、もう少しアドバイスがほしいので、仲間や先生にもう少しアドバイスをもらいに行く。」</p>	<p>【研究内容3】 本時では振り返りシートを活用して、以下の二点を振り返る。</p> <p>①課題に対する達成度 ②本時に学んだこと 振り返りシート内に本時身に付ける資質・能力を示しておくことで、文章の変化と重ねながら自己の高まりを実感することができる。</p> <p>【評価規準】 自分の意見を支えるための適切な根拠を吟味し、説得力のある文章にしている。【思考・判断・表現】 B 書くこと(ウ)</p>
	<p>5 振り返り</p> <ul style="list-style-type: none"> 修正前と修正後の文章を比較する。 本時の課題に対する達成度を自己評価する。また、前時からの意見文の差を踏まえて、自己の思考について記述する。 「最初は～と考えていたが、〇〇さんのアドバイスから、～を書き加えた方が説得力を高めることができると気づき、～という表現に変えた。そうすることで、より客観的な根拠を考えて書くことにつながった。」 	
評価		



社会科



Social studies

＜全校研究主題＞

**自分のよさや可能性を広げ、
主体的に学びに向かうことのできる生徒の育成
～個別最適な学びと協働的な学びを通して～**

＜社会科の目標＞

社会的な見方・考え方を働かせ、課題を追究したり解決したりする活動を通して、広い視野に立ち、グローバル化する国際社会に主体的に生きる平和で民主的な国家及び社会の形成者に必要な公民としての資質・能力の基礎を次のとおり育成することを目指す。

【知識及び能力】

我が国の国土と歴史、現代の政治、経済、国際関係等に関して理解するとともに、調査や諸資料から様々な情報を効果的に調べまとめる技能を身に付けるようにする。

【思考力、判断力、表現力等】

社会的事象の意味や意義、特色や相互の関連を多面的・多角的に考察したり、社会に見られる課題の解決に向けて選択・判断したりする力、思考・判断したことを説明したり、それらを基に議論したりする力を養う。

【学びに向かう力、人間性】

社会的事象について、よりよい社会の実現を視野に課題を主体的に解決しようとする態度を養うとともに、多面的・多角的な考察や深い理解を通して涵養される我が国の国土や歴史に対する愛情、国民主権を担う公民として、自国を愛し、その平和と繁栄を図ることや、他国や他国の文化を尊重することの大切さについての自覚などを深める。

＜生徒の実態＞

- ・多くの生徒が、複数の資料から課題に関連する事実を読み取ることができる。
- ・仲間と自身の考えを比較・関連させ、互いの考えを広げたり深めたりすることに弱さがみられる。また、単元で形成した認識を汎用性がある概念として捉えることに弱さがみられる。
- ・よりよい社会の実現を視野に、課題に対して見通しをもちながら、粘り強く考察していく態度が弱い。

＜目指す生徒＞

よりよい社会の実現を目指し、確かな事実の読み取りを基に、課題の解決に向けて仲間と自身の考えを比較・関連させながら互いの考えを広げたり、深めたりすることを通して、単元で獲得した認識を汎用性がある概念として捉えていくことで、主体的に社会の形成に参画する生徒。

＜研究主題＞

主体的に社会の形成に参画することができる生徒の育成

＜研究仮説＞

生徒の学びがつながる単元構成を行い、興味や関心を引き出し、学びが持続するような単元や単位時間の導入を工夫し、個別最適な学びと協働的な学びを意図的・計画的に実践しながら、認識の広がりや深まりを実感できる振り返りを行うことができれば、単元で獲得した認識を汎用性のある概念として捉え、その概念を根拠にしながら意思決定を行い、主体的に社会に参画することができる生徒を育成することができる。

研究内容（1） 興味・関心を高め、学びの見通しをもつことができる導入の工夫	研究内容（2） 自分のよさや可能性を広げる学習活動の工夫	研究内容（3） 自分のよさや可能性に気付くことができる振り返りの工夫
①生徒の思考の流れや学びのつながりを明確にした単元構造図の作成 ②生徒の興味や関心が持続し、学びが続く単元や単位時間の導入と見通しのもち方の工夫	①予想から生み出す追究の視点と選択できる資料による「個別最適な学び」の工夫 ②交流の中で自分の考えを見直したり、合意形成を図ったり、留保条件を考えたりすることで、認識を深めたり、意思決定をしたりする「協働的な学び」の工夫	①単元導入時の認識から、学びによる認識の広がりや深まりを実感できる振り返りの工夫 ②単元や単位時間で深めた認識を汎用性がある概念として捉えたり、意思決定につないだりする終末の工夫

主体的に社会の形成に参画することができる生徒の育成

1. 研究仮説

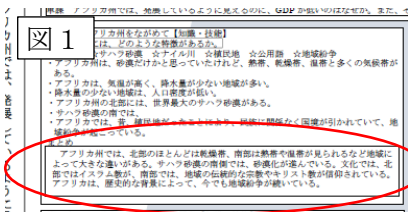
生徒の学びがつながる単元構成を行い、興味や関心を引き出し、学びが持続するような単元や単位時間の導入を工夫し、個別最適な学びと協働的な学びを意図的・計画的に実践しながら、認識の広がりや深まりを実感できる振り返りを行うことができれば、単元で獲得した認識を汎用性のある概念として捉え、その概念を根拠にしながら意思決定を行い、主体的に社会に参画することができる生徒を育成することができる。

2. 研究内容

<研究内容(1)>

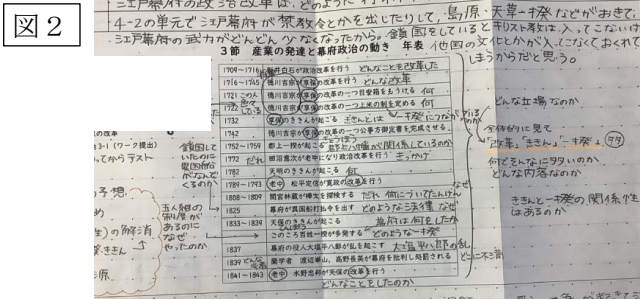
興味・関心を高め、学びの見通しをもつことのできる導入の工夫 第1学年 地理「アフリカ州」の実践

①生徒の思考の流れや学びのつながりを明確にした単元構造図の作成。



単元構造図の中に単位時間ごとのまとめをいれた。これにより、生徒を単位時間の終末にどのような認識に至らせたいか具体的な姿のイメージを教師がもつことができ、単元の思考の流れや学びのつながりが明確になった。

②生徒の興味や関心が持続し、学びが続く単元や単位時間の導入と見通しのもち方の工夫。



歴史的分野では、その単元の年表を用いて疑問を引き出す。地理的分野では、事前にアンケート調査を行い、生徒の認識とのずれを生み出す資料と単元で学ばせたい事実が分かる資料を提示し、その資料から疑問を引き出す。生徒のもった疑問から単元を貫く課題を設定することで、自分が疑問に感じたことを解決していくことにつながり、単元を通して学習意欲を継続することができた。例えば、第2学年では、年表の中で複数回出る言葉や共通すること、今まで学んだこととのずれから疑問がもてるようになっていく。

<研究内容(2)>

自分のよさや可能性を広げる学習活動の工夫

②交流の中で自分の考えを見直したり、合意形成を図ったり、留保条件を考えたりすることで、認識を深めたり、意思決定をしたりする「協働的な学び」の工夫

合意形成を図ることや、留保条件を考える実践は主に3年生が該当する。交流は、話す目的を明確にし、話し合いによって認識が深められる場面で活用する。形態は、ペアとグループがある。グループ交流を行うのは、多様な考えを聞きたい時や考える内容が難しく、意見をもちにくい場面で使う。交流では、話し手に対して感想(意見)、質問などお互いの意見を出すことで思考が深まるようにしている。

<研究内容(3)>

自分のよさや可能性に気付くことのできる振り返りの工夫

①単元導入時の認識から、学びによる認識の広がりや深まりを実感できる振り返りの工夫。

単元を貫く課題を設定した時に、その答えを予想する。その予想と単元の学習を終えた時の振り返りを比べ、認識の変化を記述する。また、歴史では、過去や現在とのつながりを考えたり、地理では、日本や自分の住んでいる地域と比べたりすることで認識の広がりや深まりが生まれた。

②単元や単位時間で深めた認識を汎用性がある概念として捉えたり、意思決定につないだりする終末の工夫。

例えば、昨年度、3年生「公民「政治と民主主義」の振り返りでR子は、「過去の日本や世界の様子から考えても、民主主義のない国家では、豊かな生活はできない」と公民だけでなく、歴史で学んだことを概念化し、結び付けて考えることができた。また、「私たちにできることは、メディアを正しく多角的に活用し、知ることによって政治に関わり、18歳になった時になんとなくではなく、こんな国にしたいという強い意志をもって選挙に参加することだと思う。民主主義の日本だから、現状を変えられるのも私たちだと思う。1票に責任をもって、よりよい世の中にしたい。」と今後の自分がどのように政治に関わるとよいかを考えることができた。

3. おわりに

各実践により、単位時間と単位時間、別の単元や別の分野をつなげて思考を深めていくことができるようになった。単元の導入については、地理的分野がまだ確立していないため、今後実践を重ねて検討していく必要がある。また、グループやペアによる交流で認識を深めていくための方策を検討していきたい。

第1学年 社会科学学習指導案

日時:令和5年11月2日(金)
第5校時 13:25~14:15
学級:1年1組
場所:1年1組教室
授業者 上杉 高広

1 単元名

2章「世界の諸地域」3節「アフリカ州～国際的な支援からの自立に向けて～」

2 教材について

本単元は、以下のような中学校学習指導要領地理的分野の内容Bの(2)に基づいて設定する。

空間的相互依存作用や地域などに着目して、主題を設けて課題を追究したり解決したりする活動を通して、以下のア及び、イの事項を身に付けることができるよう指導する。

ア 知識を身に付けること

(ア)世界各地で顕在化している地球的課題は、それらが見られる地域の地域的特色の影響を受けて、現れ方が異なることを理解すること。

(イ)各州の地域的特色を大観し理解すること。

イ 思考力、判断力、表現力等を身に付けること。

(ア)地域で見られる地球的課題の要因や影響を、州という地域の広がりや地域内の結びつきなどに着目して、それらの地域的特色と関連付けて多面的・多角的に考察し、表現すること。

また、内容の取り扱いについては

(ア)州ごとに設ける主題については、各州に暮らす人々の生活の様子を的確に把握できる事象を取り上げるとともに、そこで特徴的に見られる地球的課題と関連付けて取り上げること。

(イ)取り上げる地球的課題については、地域間の共通性に気付き、我が国の国土の認識を深め、持続可能な社会づくりを考える上で効果的であるという観点から設定すること。また、州ごとに異なるものとなるようにすること。

とある。そこで、本単元のアフリカ州では、国際的な支援を必要としているアフリカ州が、自立に向けてどのようなことが必要かという主題をもち、産業、民族、人口という地域的課題を明らかにしていく中で、持続可能な社会を作るために我が国や世界はどうしていくとよいかを考える。

3 研究に関わって

研究主題の主体的に学びに向かうことのできる生徒とは、社会科では、よりよい社会の実現を目指し、確かな事実の読み取りを基に、課題の解決に向けて自分と仲間の考えを比較・関連させながら互いの考えを広げたり、深めたりすることを通して、単元で獲得した認識を汎用性がある概念として捉えていくことで、主体的に社会の形成に参画する姿と捉え、以下のような研究に取り組む。

(1) 研究内容(1)について

単元の導入時には、事前に行ったアンケートを基に生徒の認識とズレが生じる資料を提示する。本単元では、アフリカ州は「発展していない」という認識をもっていることから、アフリカ州の経済成長が分かる資料を提示する。一方で、アフリカ州への支援、世界と比べたアフリカ州のGDP等の資料から多くの疑問を引き出すことで、生徒が興味・関心をもち続けられる単元を貫く課題を設定する。また、単位時間においても矛盾や疑問を大切に課題を設定するとともに、課題に対する予想をもったり、仲間の予想を聞いたりすることで解決の見通しをもたせていく。

(2) 研究内容(2)について

単位時間においては、資料を複数提示し、自分が予想したことに関わる資料、生徒の特性に合った資料など、読み取る資料を選択できるようにする。また、ペアやグループ交流においては、読み取ったことを話すだけでなく、感想や質問を伝え合うことで、事実認識が深まるようにする。

(3) 研究内容(3)について

単位時間の終末では、本時のまとめを、キーワードを使ってまとめたり、単元を貫く課題に対する考えや日常生活との関わりなどを振り返りとして記述したりする。また、単元終末では、探究の時間として、単元を貫く課題に迫る時間を設定する。そこで考えを交流することでアフリカ州の地域的特色やアフリカ州に見られる地球的課題と日本や世界とのつながりを考えられるようにする。

(1) 単元のねらい

- アフリカ州諸国は、植民地支配を受けた時期があることから工業化が遅れ、モノカルチャー経済となっている。アフリカ州からの輸出品は、先進国の豊かさを支える一方で、アフリカ州内では消費しづらい、価格が安定しないなどにより貧困の原因となっていることが分かる。【知識・技能】
- アフリカ州において、地域で見られる地球的課題の要因や影響を、州という地域の広がりや、地域の結びつきなどに着目して、地域的特色と関連付けて多面的・多角的に考察することができる。【思考・判断・表現】
- アフリカ州で顕在化している地域的特色やアフリカ州に見られる地球的課題に対して、よりよい社会の実現を視野に、主体的に考えることができる。【主体的に学習に取り組む態度】

【単元学習前の生徒の認識】

- アフリカ州は、かつて植民地にされた過去があり、緯線経線を利用した国境にその名残がある。
- アフリカ州は、発展途上で苦しい生活をしている国が多いと聞いたことがある。

☆基礎的・基本的な知識

第1時 アフリカ州の経済や生活の様子【主体的に学習に取り組む態度】

アフリカ州に関わる事前アンケートの「経済や文化が遅れている」という結果から、アフリカ州の経済成長率、国際支援の様子などの資料を用いて単元を貫く課題を設定する。

アフリカ州の経済や生活の様子から単元の課題を設定しよう

- ・経済成長率が高い国が多い。上位に6か国も入っている。
- ・携帯電話も普及しているし、マサイ族も携帯電話を使っている。
- ・井戸を掘っているということは水道がないのかな。建物も道もないようだ。やっぱり、生活が遅れているのではないかな。
- ・若い人が武器をもっていたり、ごみをあさったりしている。生活環境が悪いと思う。
- ・GDPの割合が低いから、あまり高価なものが生産されていないのではないかな。
- ・学校はあるようだが、日本人が先生をしている。どうしてなのだろう。

単元を貫く課題 アフリカ州が抱える課題にはどのようなものがあり、どうすれば解決できるのだろうか。

第2時 アフリカ州をながめて【知識・技能】

アフリカ州の自然環境や国境には、どのような特徴があるのだろうか。

- ☆サバナ ☆サハラ砂漠 ☆ナイル川 ☆植民地 ☆公用語 ☆地域紛争
- ・アフリカ州は、砂漠だけかと思っていたけれど、熱帯、乾燥帯、温帯と多くの気候帯がある。
- ・アフリカ州は、気温が高く、降水量が少ない地域が多い。
- ・降水量の少ない地域は、生活環境が悪いため人口密度が低い。
- ・アフリカ州の北部には、世界最大のサハラ砂漠がある。
- ・サハラ砂漠の南側では農業や牧畜がおこなわれているが、砂漠化が進んでいる。
- ・アフリカ州では、昔、植民地だったことにより、民族に関係なく国境が引かれていて、地域紛争が起こっている。

アフリカ州では、北部のほとんどは乾燥帯、南部は熱帯や温帯が見られるなど地域によって大きな違いがある。サハラ砂漠の南側では農業や牧畜がおこなわれているが、砂漠化が進んでいるため、苦しむ人々が多い。アフリカ州は、歴史的な背景によって、今でも地域紛争が続いている。

アフリカ州は地理的、歴史的な理由によって生活の苦しさという課題が生まれている。

第3時 アフリカの産業と新たな開発【知識・技能】

アフリカ州ではどのような産業が行われているのだろうか。

- ☆焼き畑農業 ☆遊牧 ☆プランテーション ☆レアメタル ☆モノカルチャー経済
- ・ガーナやコートジボワールでは、植民地の時代からカカオを生産して、現在でも続いている。子どもから大人まで働いている。豊かな生活ではない。児童労働が行われているのは問題だ。
- ・アフリカ州は、銅や金、ダイヤモンド、レアメタルなどの鉱産資源が豊かで、主要な輸出品になっている。レアメタルは、携帯電話などの部品に使われていて日本とも関わりがある。また、レアメタルをめぐって地域紛争が起こっている。
- ・アフリカ州では、焼き畑農業や遊牧が行われている。
- ・植民地時代からアフリカ州は、特定の作物だけを栽培し輸出しており、現在でもモノカルチャー経済によって、苦しんでいることが分かった。世界では、フェアトレードによって、生産者に正当な賃金を払って貧困をなくそうとしている。

アフリカ州では、ガーナを始めとする国々の産業の発達が遅れているのは、ヨーロッパの植民地だったことにより、モノカルチャー経済が続いていることが原因だ。また、レアメタルなどの資源をめぐって、地域紛争も起こっている。

モノカルチャー経済は、価格が安定していないことや、商品作物や資源が安く買われるため産業が発展せず、アフリカ州に住む人々の生活の苦しさにつながっている。

第4時(本時) 発展に向けた課題【思考・判断・表現】

アフリカ州にはどのような課題があるのだろうか。

- ☆スラム
- ・アフリカ州は教育に問題がある。子どもたちは、家庭のために働かなければならず、親は学費が払えないため、子どもを学校に行かせられない。だから、識字率が低い。字が書けないと安定した職業に就けないため貧しい生活になる。
- ・アフリカ州は医療に問題がある。1歳までの死亡率がとても高い。その理由は病院や医師の数が少ないからだ。多くの人が医療費を出すことができないほど貧しいため病院に行くことができない人が多い。
- ・アフリカ州は都市化の問題がある。仕事を求めて農村から都会に行く人が多い。地方から出てきた人は、貧しい人が住むスラムで生活している。スラムは、生活環境が悪い。
- ・どの課題にも根底にあることは「貧困」だ。
- ・アフリカ州の課題を解決する方法にはどのようなものがあるのだろうか。

アフリカ州には、地理的・歴史的な理由による生活の苦しさ、モノカルチャー経済という課題だけではなく、医療や教育、都市化などの多くの課題がある。こうした課題の根底には貧困がある。解決するためには国際支援が必要だと思うけれど、それも順調とは言えない。このような課題を解決する方法には何かがあるのか考えたい。

第5時 アフリカ州の課題解決に向けて

【思考・判断・表現】

どのようにすれば、アフリカ州の課題を解決することができるのだろうか。

- ☆非政府組織(NGO) ☆アフリカ連合
- ・現在も内戦が続いている国がある。難民問題も発生しているため NGO が解決に取り組んでいる。
- ・EUを参考にアフリカの国々は、アフリカ連合を結成し、努力をしている。
- ・モノカルチャー経済で1次産業を中心に行っているから産業が安定しないし、安い価格で取引しているから経済的に発展しない。加工する工場が必要ではないかな。
- ・アフリカ製品を少しでも購入することが大切ではないかな。
- ・植民地時代に民族に関係なく国境を引いたことで民族紛争が絶えない。国際支援が必要ではないかな。
- ・植民地時代の影響で、政治がよくならない。学校が必要ではないかな。
- ・アフリカ州は、植民地支配から独立したけれど、その影響は今でも続いており、支援が当たり前と考えているのではないかな。また、よりよい国づくりを進めるリーダーが必要なのではないかな。そのためには教育が必要だと思う。
- ・貧困の解決にはお金が必要だと思う。募金などのお金を利用して、安全な水を飲めたり、毎日食事が食べられたりできるようになれば、死亡率も下がるのではないかな。
- ・安全なまちづくりには、国際支援が欠かせない。まだ、アフリカ州だけの力では貧困を抜け出せないで、道路や上下水道などの設備を各国が協力して建設したらいいのではないかな。
- ・教育を受けられないと、子どもが大人になったときに低賃金の職に就くことになる。学校の建設や教育に関わる人が必要ではないかな。
- ・医療が発達していないから1歳未満の死亡率が高い。病院や安全な水が飲めるような施設や技術を教えることが必要ではないかな。
- ・お金などを与えることも必要だけど、アフリカ州が自立できるようにすることも大切だと思う。

アフリカ州への国際支援を続けていくことが大切なことが分かった。アフリカ州と日本や各国は、貿易などでつながっているため、国際支援が必要だと思う。

しかし、アフリカ州の人たちが各国に頼るばかりではなく、自立のための支援も必要だということがわかった。

私はものを買うときに、アフリカ州のものがあるか確かめてみたいと思った。

【単元学習後の生徒の認識】

- アフリカ州が抱える課題は、世界のどこにあってもおかしくない課題だと思った。厳しい気候の国もあれば、植民地支配を受けた影響で発展が遅れている国もある。また、教育や医療が進んでいない国もある。こうした国々と発展している国には貿易等のつながりがあるはずだ。だからお互いが発展していくためには、国際支援が必要だと思う。国際支援をしつつ、発展の遅れた国々が自分たちで成長していけるような取組が必要だと考えた。でも、どのような地域が貧困で苦しんでいるのか興味があったので、調べてみたい。

単元を貫く課題

アフリカ州が抱える課題にはどのようなものがあり、どうすれば解決できるのだろうか。

5 本時のねらい

アフリカ州には、乾燥帯が多いという気候的要因と植民地支配を受けていたという歴史的要因から、地域紛争やモノカルチャー経済を背景に、教育、医療、都市化などに多くの課題があることが分かり、それらの根底には「貧困」があることを考えることできる。【思考・判断・表現】

6 本時の展開(4/5)

時	主な学習活動	研究内容(1)(2)(3)に関わって
導入	<p>1 1枚の写真を見せ、課題化をする。 ・少女が痩せている。ものが食べられないのではないか。 ・アフリカ州にはどのような問題があるのか。</p> <p>2 課題づくり アフリカ州にはどのような課題があるのだろうか。</p> <p>3 アフリカにはどのような課題があるか予想をする。</p>	<p>【研究内容(1)】 ○ピューリッツア賞を受賞したインパクトのある資料から課題化を行い、追究しようとする意欲を持たせる。</p> <p>○予想を発言させ、今までの学習のどの資料が活用できるかを確認すると共に、解決の見通しをもたせる。</p>
展開	<p>4 アフリカ州にはどのような課題があるのかを今までの資料と本時の資料から個人追究する。</p> <p>5 全体で交流を行う。 ・アフリカ州は教育に問題がある。アフリカ州の子どもたちは、家庭のために働かなければならず、親が学費を払えないため、学校に行くことができない。だから、アフリカは、識字率が低い。文字を読んだり書いたりできないと安定した職業に就けなため貧しい生活になる。 ・アフリカ州は1歳までの死亡率がとても高く医療体制に課題がある。その理由は病院や医師の数が少ないからだ。アフリカの人は、医療費を出すことができないほど貧しいため病院に行くことができない人が多い。 ・アフリカ州は都市化の問題がある。都市への人口集中とスラムの形成、上下水道等の未整備などにより、悪い環境で生活をしている。だから、健康にも影響がある。</p> <p>6 ガーナ出身のボスクさん(ゲストティーチャー)に、「生徒から出されたアフリカの課題の根底には何があると思うのか」という投げかけをしてもらう。 ・教育のことが問題になっていたが、ガーナでは人口が増えており、私が学校に通っていた時は、全校生徒800人だったが、現在2000人に増えている。政府からの援助には限りがあるため、一人一人にかけられる金額は、年々少なくなっている。 ・貧困が問題になっていたが、ガーナでは、カカオの加工工場を作って利益を上げようと努力している。加工した製品を世界に売ろうとしているが、先進国にとって利益が高いのは、原料を輸入し加工して販売することであるため、なかなか加工品を輸入してくれない現状があり、苦しんでいる。そのため、アフリカ州だけでなく、世界の問題として考えていかなければならない。</p> <p>7 ペア交流を行う。</p> <p>8 全体交流を行う。 ・根底に「貧困」があるから、こうした課題が生まれている。 ・教育が受けられないのも、死亡率の高さも、貧困が原因だと思う。経済的に豊かであれば、解決できるのではないか。</p> <p>9 ボスクさんの話を聞く。</p> <p>10 ボスクさんが話したことに対してや、学んできたことの中で疑問に思っていることを質問する。</p>	<p>【研究内容(2)】 ○関心を持った資料や、文字・地図・表など自分が読み取ることができ資料を選択して追究を行わせる。 ○机間指導の中で、問題点を見つけることで終わっている生徒には、その背景や未来を考えるよう助言する。 ○各課題の背景や未来を考えられない生徒には、「文字の読み書きができないと将来どんな問題が起きるかな」などの発問をして考えられるようにする。</p> <p>○出されたアフリカ州の課題の根底にあるものを問うことで、アフリカ州の地域的特色と地球的課題を明確にする。 ○ペア交流を位置付け交流する中で、感想や質問をすることで、深まりのある認識となるようにする。</p> <p>○OGTには、「貧困」に関わってアフリカ州の現状と今後という視点で話をさせていただく。特に、国際支援の必要性について話していただく。 ○OGTへの質問の時間を位置付け、アフリカ州への興味と自国とのつながりについて考えを深められるようにする。</p> <p>【研究内容(3)】 ○まとめには、「貧困」というキーワードを使ってまとめさせたり、単元を貫く課題に対する考えや、疑問に対する答え、新たな学び等を記述させたりすることで、アフリカ州の地域的特色やアフリカ州に見られる地球的課題と日本や世界とのつながりを考えられるようにする。 ○振り返りでは、学習したことと日常生活との関わりや、世界とのつながり等、自分の感じたことを書くようにする。</p>
評価	<p>11 本時の課題をまとめ、振り返りを書く。 ・アフリカ州には紛争以外にも、教育や医療などに課題があり、これらの課題は貧困が根底にあるから起きることも分かった。解決のためには、国際支援が必要だと思うが、どの国も自国の利益を優先させることから、アフリカ州の発展につながっていかないと思った。アフリカ州が課題を解決して発展するための方法について考えたい。そして、貧困で苦しんでいるのは、アフリカ州以外の地域でどのようになっているのか調べてみたい。</p>	<p>【評価規準】 アフリカ州には、地域紛争やモノカルチャー経済を背景に、教育、医療、都市などの側面で多くの課題があり、それらの根底には、貧困があるということを考えることができる。【思考・判断・表現】</p>



数学科



Mathematics

＜全校研究主題＞

**自分のよさや可能性を広げ、
主体的に学びに向かうことのできる生徒の育成
～個別最適な学びと協働的な学びを通して～**

＜数学科の目標＞

数学的な見方・考え方を働かせ、数学的活動を通して、数学的に考える資質・能力を次のとおり育成することを目指す。

【知識及び技能】

数量や図形などについての基礎的な概念や原理・法則などを理解するとともに、事象を数学化したり、数学的に解釈したり、数学的に表現・処理したりする技能を身に付けるようにする。

【思考力、判断力、表現力等】

数学を活用して事象を論理的に考察する力、数量や図形などの性質を見いだし統合的・発展的に考察する力、数学的な表現を用いて事象を簡潔・明瞭・的確に表現する力を養う。

【学びに向かう力・人間性等】

活動の楽しさや数学のよさを実感して粘り強く考え、数学を生活や学習に生かそうとする態度、問題解決の過程を振り返って評価・改善しようとする態度を養う。

＜生徒の実態＞

- ・問題を解くのに必要な基礎的な知識や、数学的に表現・処理する技能については多くの生徒が身に付けている。
- ・数量や図形の性質を見いだそうとすることはできるが、既習事項と関連付けて考え、根拠をもとにして簡潔に説明することや、統合的・発展的に考察することには、課題がみられる。
- ・課題に対し、前向きに粘り強く取り組もうとする姿は見られるが、自ら問題を見いだしたり、よりよい方法を模索したりするなど、数学の楽しさやよさを味わうには至っていない。また、数学に苦手意識をもつ生徒も少なくはない。

＜目指す生徒＞

身に付けた基礎的な知識や、数学的に表現・処理したりする技能をもとに、数学的活動を通して、論理的・統合的・発展的に考察したり、数学的な表現を用いて筋道立てて表現しようとしたりする姿。また、数学の楽しさや数学のよさを実感して粘り強く考えたり、過程を振り返り改善をしたり、数学を生活や学習に生かそうとする生徒。

＜研究主題＞

数学的に考える生徒の育成

＜研究仮説＞

単元の導入や、単位時間の導入で学習の見通しをもたせることで身に付けるべき力を明らかにし、根拠を明確にして説明することや、多様な考えを比較しながら考える数学的な活動を行ったり、問題解決の過程を振り返ることでよりよい学びを目指そうとしたりしていくことができれば、数学の楽しさやよさを実感し、数学的に考える生徒を育成することができる。

研究内容（１） 興味・関心を高め、学びの見通しをもつことができる導入の工夫	研究内容（２） 自分のよさや可能性を広げる学習活動の工夫	研究内容（３） 自分のよさや可能性に気付くことができる振り返りの工夫
①単元に関わる既習事項と見通しをもたせる問題とを活用した単元の導入 ②単位時間の見通しをもたせる導入	①自分の考えと仲間の考えを共有、比較、検討する場の設定 ②個に応じて取り組める練習問題の活用	どんな考え方をもとにしたのか、何ができるようになったのかを明らかにできる自己評価や相互評価の工夫

数学的に考える生徒の育成

1 研究仮説

単元の導入や、単位時間の導入で学習の見通しをもたせることで身に付けるべき力を明らかにし、根拠を明確にして説明することや、多様な考えを比較しながら考える数学的な活動を行ったり、問題解決の過程を振り返ることでよりよい学びを目指そうとしたりしていくことができれば、数学の楽しさやよさを実感し、数学的に考える生徒を育成することができる。

2 研究内容

<研究内容(1)>

興味・関心を高め、学びの見通しをもつことができる導入の工夫

①単元に関わる既習事項と見通しをもたせる問題と活用した単元の導入

【全学年の実践】

単元指導計画の入った振り返りシートを単元導入で確認する時間を設けることで、単元全体の時数や、単位時間ごとに学ぶ学習内容、重要語句を把握することができるようにした。そうすることで、単位時間ごとの目標を確認し、生徒自身が目指すべき姿を見通すことができた。

②単位時間の見通しをもたせる導入

【全学年の実践】

毎時間、導入時に振り返りシートを用いて、単元全体で本時はどの位置に当たるか確認し、前時学んだことを導入で扱い、前時との類似点・相違点を考えることで、本時では何を考えていくのか、何を使って学んでいくのかを明らかにするようにした。そうすることで、単位時間の見通しをもち、前時までの学びを繋げて考える生徒が増えた。

<研究内容(2)>

自分のよさや可能性を広げる学習活動の工夫

①自分の考えと仲間の考えを共有、比較、検討する場の設定

【2年生 1次関数の実践】

第2学年「1次関数」の単元の中で、1次関数の表から特徴を見出す授業では、1つの表から読み取った特徴が、どの1次関数の表でもいえるのか問うことで、他の1次関数でも確かめる必要があることに気付かせるようにした。自分がつくった表と仲間がつくった表を比較する場を設定することで、それぞれの表の共通点から1次関数の表の特徴を見出すことができた。

②個に応じて取り組める練習問題の活用

【3年生 関数の実践】

図形の移動によるできる複数の関数関係を見つけ、明らかにする問題に取り組むときに、自分が見つけた複数の関数関係の中から、選択して関係を明らかにする活動を行った。ロイロノート上に手がかりとなるヒントカードや、変化を確認できるシミュレーションソフトを配布することで、困ったときにいつでも確認できるようにした。そうすることで、全員が同じ土台に立ち、問題を解決した生徒は次の問題に自ら進んで取り組むことができた。

<研究内容(3)>

自分のよさや可能性に気付くことができる振り返りの工夫

①どんな考え方をもとにしたのか、何ができるようになったのかを明らかにできる自己評価や相互評価の工夫

【全学年の実践】

単元指導計画や単元の目標、単位時間の目標を位置づけた以下のような振り返りシートを作成し、「学びの記録」を自身の言葉で残すことを行った。振り返りは、「授業の理解」と「自己の変容」の2つの観点を位置づけた。ロイロノート上でいつでも振り返りシートを確認できるため、どの授業でどのように学びを得てきたのか、自分のよさや学びの過程を実感できると考えた。また、授業の導入時に前時の振り返りを紹介することで、仲間の振り返りから自分の学びの振り返りと比較しながら、学び方のよさを知ることができると考えた。

1次関数	
知	「yはxの1次関数である」ことの意味を理解する。2つの数量の関係も、数式に表すことができる。
感	1次関数の関係性を考え、関係を見いだす。
学	1次関数だけでなく異なる関数があることに興味をもち、2つの数量の関係性を調べようとする。
思	関数yはxの1次関数である。

y=ax+bという形になっていれば一次関数ということがわかった。また、(冷)まで学習してきた比例も一次関数に含まれるのだと学んだ。

3 おわりに

各実践を通して、単元の見通し、単位時間の見通しをもてる生徒が増えてきた。生徒の中には、見通しをもつ時に、自分自身で前時の学びをもとにして、本時の問題にどのように取り組むか考える姿があった。

自分の学びを振り返りながら、数学を学ぶ楽しさやよさを実感させ、数学的に考える生徒を育てていきたい。

第2学年 数学科学習指導案

日 時	令和5年 11月2日(木)
	第5校時 13:30~14:20
学 級	2年3組
場 所	2年3組教室
授業者	下村 滉太

1 単元名

「三角形と四角形」(3/18)

2 単元について

本単元について学習指導要領には以下のように書かれている。

第1学年では、図形の作図や移動を取り扱っている。また、空間における直線や面の位置関係を知り、空間図形を直線や平面図形の運動によって構成されているものと捉えたり、平面上に表現したり、読み取ったりしている。これらの学習を通して、図形についての豊かな感覚を育み、図形についての理解を深めるとともに、論理的に考察し表現する力を養ってきている。

第2学年では、三角形や四角形などの多角形の角の大きさについての性質を、数学的な推論を用いて調べることができるようにする。その際、図形をよく確認したり、作図したりする操作や実験などの活動を通して、その推論の過程を他者に伝えるように分かりやすく表現できるようにする。

本単元においては、三角形や四角形の性質を伝えるために証明を用いて表現できるようにする。そのために証明に必要な見通しをもたせ、それぞれが自分で選択した学び方で数学的に考える生徒を育成する。

3 研究に関わって

(1) 研究内容(1)について

単元の導入時に、振り返りシートを活用して、本単元では何を、どのように学ぶのかを明らかにして、つける力や学びの見通しがもてるようにする。また、単位時間においては前時学んだことを導入で扱い、本時との類似点、相違点を明らかにすることが、課題化につながると考えた。学びの見通しをもち、興味・関心をもたせる導入にすることで、生徒が主体的に取り組めるようにする。本時では、前時学んだ二等辺三角形の性質の逆を考える学習活動で生まれた疑問を証明につなげる導入を行う。

(2) 研究内容(2)について

協働的な学びとして、仲間と数学的な言葉を用いて説明する場を設定することで、数学的に考える力だけでなく、よりよい考えを仲間とともに学ぶよさの実感につながると考えた。また、個別最適な学びとして、ロイロノートやプリントを準備しておき自分で学び方を選び学習に向かえるような学習環境を整えることで、本時つけたい力だけでなく、自分の学び方のよさに気付いたり、この学び方なら他の問題もできそうだという可能性を生み出したりするが出来ると思った。本時では、自分だけで考えるだけでなく、仲間と共に学べるように活動の中で声をかけていく。また、穴埋めプリントやロイロノートを用いた学び方を準備しておき、自分で選択した学び方で学ぶことで自分に合った学びのよさを知ることができるようになる。

(3) 研究内容(3)について

ロイロノート上に、単元指導計画を元にした単位時間ごとの「学びの記録」を自分の言葉で残す振り返りシートを作成し、「授業の理解」と「自己の変容」の2つの自己評価の観点を位置付けた。また、自分の振り返りを交流し他者の考え方をすることで、自分の新たな可能性に気づくことができると考えた。本時では、自分の学び方を振り返り学び方のよさを知り、次の学習に向かう意欲につなげ、単元終了時には証明を利用した問題解決を自分でできるように、振り返りをつなげていく。

4 単元指導計画

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に取り組む態度
<ul style="list-style-type: none"> ・三角形と四角形に関する定義と定理及び逆について理解する。 ・証明の意義を理解する。 ・図形の性質や合同などの関係を、記号を使って表すことができる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・三角形の合同条件などをもとにして三角形や四角形の基本的な性質を証明したり、証明を読んで新たな性質を見いだしたりする。 ・三角形や平行四辺形の基本的な性質などを具体的な場面で利用する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・証明のよさを実感して粘り強く考え、三角形と四角形について学んだことを生活や学習に活かそうとしたり、三角形と四角形の性質や証明を利用した問題解決の過程を振り返って評価・改善しようとする。

第1節

時	評価規準	
1	知識・技能	定義や定理の意味と役割、二等辺三角形の定義と性質を理解する。 図形の定義、仮定と結論、図形の性質を説明する際に、記号を使って表すことができる。
2	思考・判断・表現	二等辺三角形の性質の証明についての見通しを立て、三角形の合同条件のどれを使うのかを判断し、証明する。
3 (本時)	思考・判断・表現	二等辺三角形であるための条件の証明についての見通しを立て、三角形の合同条件を用いることで証明することができることに気づき、証明する。
4	知識・技能	命題の逆や反例の意味や、逆が成り立たないことを証明するには、反例を1つあげればよいことを理解する。
5	思考・判断・表現	正三角形の性質の証明についての見通しを立て、二等辺三角形の性質を使って証明する。
6	知識・技能	直角三角形の定義及び直角三角形の合同条件の意味と必要性及び使い方を理解する。 図形の性質を調べたり証明したりする際に、記号を使って表すことができる。
7	思考・判断・表現	直角三角形の合同条件を筋道を立てて説明し、まとめる。 直角三角形の合同条件を使って、図形の性質を考えたり、証明をふり返って新たな性質を見いだしたりする。
8	知識・技能	練習問題を通して第1節の内容を身に付ける。

第2節

時	評価規準	
1、2	思考・判断・表現	平行四辺形の性質を、三角形の合同条件などをもとにして証明する。 平行四辺形の性質を、いろいろな図形の性質の証明に利用する。
3、4	思考・判断・表現	平行四辺形であるための条件を、平行四辺形の性質の逆などに着目して証明したり、いろいろな図形の性質の証明に利用したりする。
5、6	知識・技能	ひし形、長方形、正方形の定義や性質及び四角形の相互関係を理解する。 図形の性質の証明を記号を使って表すことができる。
7	思考・判断・表現	平行線間の距離に着目して、図形の面積を変えずに変形する方法を考える。
8	知識・技能	練習問題を通して第2節の内容を身に付ける。

第3節

時	評価規準	
1	主体的に取り組む態度	日常生活や社会の事象における問題を、三角形や四角形の性質を利用して解決したり、解決の過程を振り返って、新たな問題を見いだしたりする。
2	知識・技能	練習問題を通して章の内容を身に付ける。

5 本時のねらい

2つの角が等しい三角形は二等辺三角形になるかを考える活動を通して、「頂角の二等分線をひいてできた2つの三角形が合同であることを示すことができれば、二等辺三角形になりそうだ」と気づき、三角形の合同条件を用いて証明する。

6 本時の展開(3/18)

時	主な学習活動	研究内容(1)(2)(3)関わって
導入	<p>1 問題を提示し課題を把握する。 「前時に二等辺三角形は2つの底角が等しいとしたが、逆に2つの角が等しければ二等辺三角形といえるのだろうか。」 ・いえる…逆もいえそう。 ・いえない…二等辺三角形は2つの辺が等しい三角形だから。角は関係ない。 「実際に2つの角が等しい三角形をかいて、確かめてみよう。」 ・どんな大きさの角でも二等辺三角形になっている。</p> <p style="border: 1px solid black; padding: 5px; text-align: center;">2つの角が等しい三角形は二等辺三角形になることを証明しよう。</p>	<p>【研究内容(1)】</p> <ul style="list-style-type: none"> 2つの角の大きさが等しくなる三角形をかく活動を行うことで、2つの角が等しい三角形は二等辺三角形であることに興味・関心をもたせる。
展開	<p>2 証明の見通しをもつ。 「何が分かれば△ABCが二等辺三角形といえるのかな。」 ・$AB=AC$がいれば証明できる。 ・頂角の二等分線をひいて合同な三角形の証明をすればよい。</p> <p>3 自分が選択した学び方で、証明をする。 ①図に書き示して説明する ②ロイロノートを用いた用語の並び替え</p> <div style="display: flex; justify-content: space-around;"> <div data-bbox="236 947 534 1216"> </div> <div data-bbox="651 925 1045 1216"> </div> </div> <p>③穴埋めプリント1 穴埋めプリント2</p> <div style="display: flex; justify-content: space-around;"> <div data-bbox="252 1305 571 1619"> <p>△Aの二等分線をひき、辺BCとの交点をDとする。</p> <p>△ABDと△ACDで 仮定から、$\angle ABC = \angle ACD \dots \textcircled{1}$</p> <p>ADは、△Aの二等分線だから、 $\angle BAD = \angle CAD \dots \textcircled{2}$</p> <p>①と②と三角形の内角が180°で等しいことから、 $\angle ADB = \angle ADC \dots \textcircled{3}$</p> <p>共通な辺だから、$AD = AD \dots \textcircled{4}$</p> <p>②、③、④から「組の辺とその両端の角がそれぞれ等しいので」 $\triangle ABD \cong \triangle ACD$</p> <p>対応する辺だから $AB = AC$ したがって2つの角が等しい三角形は2つの辺が等しい。 だから△ABCは二等辺三角形といえる。</p> </div> <div data-bbox="699 1305 1018 1619"> <p>△Aの二等分線をひき、辺BCとの交点をDとする。</p> <p>△ABDと△ACDで 仮定から、$\angle ABC = \angle ACD \dots \textcircled{1}$</p> <p>ADは、△Aの二等分線だから、 $\angle BAD = \angle CAD \dots \textcircled{2}$</p> <p>①と②と「三角形の内角が180°で等しいことから」、 $\angle ADB = \angle ADC \dots \textcircled{3}$</p> <p>共通な辺だから、$AD = AD \dots \textcircled{4}$</p> <p>②、③、④から「組の辺とその両端の角がそれぞれ等しいので」 $\triangle ABD \cong \triangle ACD$</p> <p>対応する辺だから $AB = AC$ したがって2つの角が等しい三角形は2つの辺が等しい。 だから△ABCは二等辺三角形といえる。</p> </div> </div> <p>④自分で全文書く</p> <p>4 本時の学習を深める。 「なぜ補助線をひいたのだろう。」 ・三角形が2つできて、その2つの三角形の合同を証明することができれば、$AB=AC$がいえるから。</p>	<p>・証明の見通しをもつために交流を行い、$AB=AC$であることが言えればよいという証明の見通しをもつことができる。</p> <p>【研究内容(2)】</p> <ul style="list-style-type: none"> 図を用いた交流を行い、見通しを全員がもち学習に向かえるようにする。 課題解決に向けて複数の方法を準備しておくことで、生徒の理解度に応じて方法を選択できるようにする。 <p>【研究内容(3)】</p> <ul style="list-style-type: none"> 単元を通した振り返りシートに、本時の学びを書き込み、学びを積み重ねられ次への意欲につなげる。 自分で選択した方法について振り返り、自分の学びや他の証明につなげる。 他者の振り返りを知ることで、次の自分の学び方につなげる。
評価	<p>5 本時の学びをまとめ、振り返る ・ロイロノート上の振り返りシートに本時学んだことを自分の言葉でまとめ、本時の学び方を振り返る。 「補助線をひくことで三角形の合同が使えるようになり、二等辺三角形になることの証明ができる。ロイロノートの並び替えて証明した後に穴埋めでなくても全文書こうとしたら、書けたのでこれからも続けていきたい。」</p>	<p style="border: 1px solid black; padding: 10px;"> 【評価規準】 2つの角が等しい三角形が二等辺三角形になることを、三角形の合同条件を用いて証明する。 【思考・判断・表現】 </p>



理科



Science

＜全校研究主題＞

**自分のよさや可能性を広げ、
主体的に学びに向かうことのできる生徒の育成
～個別最適な学びと協働的な学びを通して～**

＜理科の目標＞

自然の事物・現象に関わり、理科の見方・考え方を働かせ、見通しをもって観察、実験を行うことを通して、自然の事物・現象を科学的に探究するために必要な資質・能力を次のとおり育成することを目指す。

【知識及び技能】

自然の事物・現象についての理解を深め、科学的に探究するために必要な観察、実験などに関する基本的な技能を身に付けるようにする。

【思考力、判断力、表現力等】

観察、実験などを行い、科学的に探究する力を養う。

【学びに向かう力、人間性等】

自然の事物・現象に進んで関わり、科学的に探究しようとする態度を養う。

＜生徒の実態＞

- ・学んだ知識、技能を基にして、根拠を明らかにして仮説を立てることに弱さがある。また、実験器具の操作、グラフや計算の技能が難しいと感じている生徒が多い。
- ・積極的に班やペアとの交流を行い、仲間と自分の考えを比較することができる。しかし、見つけた事実を、日常生活や社会における事象・現象と結びつけて考えることや科学用語を使って表現することに苦手意識がある。
- ・理科が好きで、興味関心をもって観察実験を進んで行い、意欲的に取り組んでいる生徒が80%程いる。新たな気づきや発見ができていると感じる生徒も少なくない。

＜目指す生徒＞

理科の見方・考え方を働かせ、自らの考えを深めたり、日常生活や社会における事象と関連付けたりしながら、科学的に探究し続ける生徒。

＜研究主題＞

科学的に探究し続ける生徒の育成

＜研究仮説＞

自然の事物・現象から問題を見だし、観察、実験の結果を分析して解釈し、探究の過程を振り返る活動を行う。そして、理科の見方・考え方を働かせて、自らの考えを深めたり、広げたりする活動を通して、どのような視点で事物・現象を捉え、どのような考え方で思考すればよいのかを自覚しながら関わることができれば科学的に探究する生徒を育成することができる。

研究内容（1） 興味・関心を高め、学びの見通しをもつことができる導入の工夫	研究内容（2） 自分のよさや可能性を広げる学習活動の工夫	研究内容（3） 自分のよさや可能性に気付くことができる振り返りの工夫
①発問や事象提示から課題を見だせる単位時間の導入の工夫 ②その単元に必要な見方や考え方を知り、学びの見通しをもつことができる単元の導入の工夫	①思考を整理するための学習支援の工夫（ICTの活用等） ②自分の結果と仲間の結果を比べ、見方や考え方を深め、広げることができる交流の工夫	自分の変容や深まりを実感したり、日常生活や社会で生かされている事象に気付いたりするための振り返りの視点の工夫

科学的に探究し続ける生徒の育成

1 研究仮説

自然の事物・現象から問題を見だし、観察、実験の結果を分析して解釈し、探究の過程を振り返る活動を行う。そして、理科の見方・考え方を働かせて、自らの考えを深めたり、広げたりする活動を通して、どのような視点で事物・現象を捉え、どのような考え方で思考すればよいのかを自覚しながら関わることができれば科学的に探究する生徒を育成することができる。

2 研究内容

<研究内容(1)>

興味・関心を高め、学びの見通しをもつことができる導入の工夫

①発問や事象提示から課題を見いだせる単位時間の導入の工夫

【2年生化学変化と原子・分子の実践】

2年生化学「質量保存の法則」を扱う授業では、導入に発泡入浴剤を用いた。発泡入浴剤は生徒にとって身近な現象であり、気体が発生することと、質量の変化が可視的にわかる教材であると考えた。本時では質量の変化を見ればよいことを理解したり、密閉した状態での質量の変化はどうなるのか、という疑問をもったりすることができた。この現象をもとに予想や仮説を立て、実験や考察の見通しをもつ姿があった。

②その単元に必要な見方や考え方を知り、学びの見通しをもつことができる単元の導入の工夫

【3年生生命の連続性の実践】

3年生の生物の単元の導入では、「一粒数万円するいちごが存在する理由」や「毛並みや色が違うイヌの両親から生まれてくる子はどのような形質か」などの事象を提示した。その内容について班内で話し合いをさせることで、生徒一人一人が疑問をもつことができた。この疑問をもとに、単元の流れを構成し、単元を学習していく中で、疑問を解決していくという流れをつくることができた。

<研究内容(2)>

自分のよさや可能性を広げる学習活動の工夫

①思考を整理するための学習支援の工夫(ICTの活用等)

【2年生化学変化と原子・分子の実践】

原子や分子の数や動きを簡単に操作できるモデルを使って、実験した化学変化について、説明したり、化学反応式をつくつ



たりする活動を行った。ロイロノートのカードに、原子や分子の数、化合の仕方に着目できるようなモデルをつくっておき、生徒が操作できるようにした。全員が同じ土台で考えることができることにより、生徒同士が図を使って説明することができた。また、他の生徒が発表している内容も理解することができた。

②自分の結果と仲間の結果を比べ、見方や考え方を深め、広げることができる交流の工夫

【3年生化学変化とイオンの実践】

酸とアルカリの物質には、何が共通して存在しているのか、という疑問を解決するための実験結果



から、BTB溶液の色の変化とイオンの移動をつなげて考えることができた。考える時間を確保した後、教師から疑問を投げかけることで、色が変化していないところには何があるのか考えたり、物質を構成しているイオンの数についても考えたりすることで、見方や考え方を深めることができた。

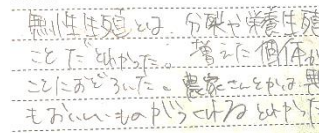
<研究内容(3)>

自分のよさや可能性に気付くことができる振り返りの工夫

①自分の変容や深まりを実感したり、日常生活や社会で生かされている事象に気付いたりするための振り返りの視点の工夫

振り返りの視点を「課題の答え」と「自分の変容や深まり、日常生活とのつながり」とし、毎時間の振り返りの時間に提示した。このことにより、自分の疑問に対する考えや、新たな疑問をもつという姿が生まれた。

振り返り



無性生殖とは、分裂や栄養生殖など、体が2つ以上に分かれてふえることだとわかった。ふえた個体は味が一緒だったり、クローンになっていたりに驚いた。農家さんとかは、無性生殖を利用して、いつまでもおいしいものがつくれる、とわかった。

3 おわりに

ICTの活用や交流の場面を工夫することで、理科の見方や考え方を深めることができた。また、導入や終末の工夫をすることで日常生活との関わりに気付く生徒の姿が生まれた。今後は、日常生活や社会との関わりから、問題を見いだして解決していこうとする生徒を育成していきたいと考える。

第3学年 理科学習指導案

日 時:令和5年 11月2日(木)
第5校時 13:30~14:20
学 級:3年3組
場 所:第1理科室
授業者:鷲見陽紀

1 単元名

「運動とエネルギー」第3章 エネルギーと仕事

2 単元について

学習指導要領では、本単元における学習のねらいを、

物体の運動とエネルギーを日常生活や社会と関連付けながら、身の回りの現象を理解するとともに、それらの観察、実験などに関する技能を身に付けること。

運動とエネルギーについて、見通しをもって観察、実験などを行い、その結果を分析して解釈し、力のつり合い、合成や分解、物体の運動、力学的エネルギーの規則性や関係性を見いだして表現すること。また、探究の過程を振り返ること。

としている。

本単元では、運動やエネルギーの視点で、身の回りの現象の規則性を見いだす必要がある。日常生活の中の運動(例えば、坂道を下る運動や、物体を落とした時の衝撃など)は、誰もが経験していることである。しかし、ここに規則性があり、規則に従って身の回りの現象が起きているという考え方をもちることができない生徒が多いと考える。そこで、身の回りの現象の規則性を学び、どんな場合でもこの規則が成り立つのかを考えさせることで、日常生活とのつながりと、理科の知識や技能を確実に身に付けさせたい。そのために、実験の結果を大事にして、自分の考えをもったり、班の仲間と話し合ったりして考察を深めていけるようにする。ここでいう「深める」とは理科の見方(量的・関係的)・考え方(比較する、関係づける、条件を制御する、多面的に考える、疑問をもつ、結果を分析して解釈する、探究の過程を振り返る)を多くの視点で考えをもつことである。

本時は、どのようなパターンで「仕事」をしても、「同じ状態になるまでの仕事の大きさは変わらない(仕事の原理)」ということをおさえる。そのために、規則性についておさえたうえで、生徒が滑車を用いた実験を構想し、各々の結果を見て分析して解釈させたいと考える。考察していく中で、実験結果の妥当性や、仕事の原理について検討する時間を確保する。また、滑車のメリットやデメリットを実感させることで、道具を選ぶことの必然性について考え、日常生活とつなげて考えられるようにする。

3 研究に関わって

研究主題の「主体的に学びに向かうことのできる生徒」とは、理科では、「単元や単位時間の導入で興味・関心をもった課題意識が終末まで持続し、科学的に探究し続けることができる力をつけること」と捉え、以下のよう

(1) 研究内容(1)について

単元の導入では、「物はなぜ動くのか」ということを考えさせるために、大きさや質量の違う球体を平面や坂道で転がしてみようという活動を行う。その際に、物体の運動の様子や衝突した時の運動に着目させることで、「物が動くこと」や「物体のエネルギー」について疑問を抱かせる。

単位時間の導入では、身の回りの現象の規則性についておさえる事象提示を行い、条件を変えても成り立つのかということに疑問を抱かせることで、見通しをもたせて学習を進める。

(2) 研究内容(2)について

生徒が疑問をもてるような導入の実験を考え、課題意識を持続させる。質量や滑車の数などの条件を変えた実験方法を考え、実験方法や結果を動画に記録する。各々の結果を交流し、条件の違う実験をした仲間の結果と比べることで、共通点や相違点を見つけ、分析して解釈させて見方・考え方を深める。

(3) 研究内容(3)について

「自分の仮説とつなげた課題に対しての答え」「自分の考えの変容、見方・考え方の深まり、日常生活とつなげて」という視点を提示する。

4 単元指導計画

<ul style="list-style-type: none"> 物体に力がはたらく運動および力がはたらかない運動についての観察、実験を行い、物体の運動には速さと向きがあること、力がはたらく運動では運動の向きや時間の経過にもよって物体の速さが変わることを、および、力がはたらかない運動では物体は等速直線運動することを見いだして理解するとともに、それらの観察、実験の技能を身に付ける。【知識・技能】 物体の運動について、見通しをもって観察、実験などを行い、その結果を分析して解釈し、物体の運動の規則性や関係性を見いだして表現する。また、探究の過程を振り返る。【思考・判断・表現】 物体の運動に関する事象・現象に進んでかかわり、科学的に探究する態度を養うとともに、自然を総合的に見ることができるようになる。【主体的に学習に取り組む態度】
--

時数	主な学習活動	評価規準
第1章 物体の運動		
1	『身の回りの現象から疑問をもとう。』 <ul style="list-style-type: none"> 物体はなぜ動いているのだろう。 手回し発電機を2つないだ時に、ハンドルがあまり回らないのはなぜだろう。 エネルギーとは何だろう。 	身近な事象から単元を見通すことができる。 【主体的に学習に取り組む態度】
2 3	『水平面上で移動する物体の運動を記録タイマーで記録すると、何がわかるだろうか。』 <ul style="list-style-type: none"> 記録タイマーの点の間隔を見れば、速さの違いが分かる。 点の間隔が広がれば速く、点の間隔が狭ければ遅い運動である。 速さを求めるには「移動距離」と「かかった時間」を知らねばよい。 	記録タイマーの使い方を理解することができる。 【知識・技能】
4	『物体の運動の速さの変化をくわしく調べるには、どうすればよいだろうか。』 <ul style="list-style-type: none"> 速さには平均の速さと、瞬間の速さがある。 グラフに表すことで、速さの変化を読み取ることができる。一定の速さで動く物体の運動のことを等速直線運動という。 	速さの変化をグラフに表すことができる。 【知識・技能】
5 6	『物体がだんだん速くなる運動に、力はどのように関係しているだろうか。』 <ul style="list-style-type: none"> 斜面上には、斜面下向きに力がはたらいている。 斜面下向きの力の大きさは、どの地点でも同じである。しかし、斜面の傾きを大きくしたら、斜面下向きの力は大きくなる。 記録タイマーの結果から、速さが増加していることがわかる。 垂直に落下する運動を自由落下という。 	実験の結果から、斜面を下る物体の速さが速くなることを見いだすことができる。 【思考・判断・表現】
7 8	『物体の運動の向きとは逆向きに一定の力がはたらき続けるとき、物体の速さはどのように変化するだろうか。』 <ul style="list-style-type: none"> 斜面下向きの力や摩擦力が、物体の運動の向きとは逆向きの力である。 斜面下向きの力や摩擦力がはたらくと、速さが減少していく。 物体を前進させる力と、摩擦力などが同じ大きさになると速さは一定になる。 	実験の結果から、物体の運動の向きとは逆向きの力がはたらく場合は、速さが減少することを見いだすことができる。 【思考・判断・表現】
第2章 力のはたらき方		
1 2 3	『1つの物体に、ある角度をもった2力がはたらくとき、どのように表すことができるだろうか。』 <ul style="list-style-type: none"> 角度をもった2力の合力は、平行四辺形の対角線になる。 平行四辺形を作出することで、分力や合力の大きさを求めることができる。 	2力がはたらくときの合力や分力は、平行四辺形を作出することで求めることができる。 【知識・技能】
4	『力がはたらいていないときや、力がはたらいていても合力が0のとき、物体の運動はどうなるだろうか。』 <ul style="list-style-type: none"> 静止している物体は、静止し続ける。 運動している物体は、そのままの速さで等速直線運動を続ける。 物体は慣性という性質をもつ。 	身の回りの現象を体感することで、物体が慣性をもつことを理解することができる。 【知識・技能】
5	『ある物体が別の物体に力を加えたとき、2つの物体の間でどのように力をおよぼし合うだろうか。』 <ul style="list-style-type: none"> ある物体に力を加えると、同時に相手の物体から同じ大きさで逆向きの力を受ける。 作用と反作用は一直線上にあるが、それぞれ異なる物体にはたらく。 	身の回りの現象を体感することで、物体にはたらく作用・反作用の法則を理解することができる。 【知識・技能】
6 7	『水中の物体にはたらく上向きの力の大きさは、物体の何に関係するだろうか。』 <ul style="list-style-type: none"> 水圧は、物体に対してあらゆる方向からはたらく。 水圧は、深い方が大きくなる。 浮力は、深さに関係しない。 	実験の結果から、水圧や浮力の規則性を見いだすことができる。 【思考・判断・表現】
第3章 エネルギーと仕事		
1	『エネルギーにはどのような形態があるのだろうか。』 <ul style="list-style-type: none"> 電気によってモーターで物を動かしたり、スピーカーから音を出したりするように、さまざまなはたらきができるとき、エネルギーをもつという。 エネルギーにはさまざまな形態がある。 エネルギーはさまざまな形態から、別のさまざまな形態に変わるときがある。 	エネルギーにはさまざまな形態があることを理解できる。 【知識・技能】
2 3	『運動する物体の運動エネルギーと位置エネルギーには、どのような関係があるだろうか。』 <ul style="list-style-type: none"> 運動している物体がもっているエネルギーを運動エネルギーという。 高い位置にある物体がもっているエネルギーを位置エネルギーという。 ジェットコースターや振り子の運動では、力学的エネルギーは保存される。 運動エネルギーは、速さの2乗に比例する。 位置エネルギーは、基準からの高さに比例する。 	運動エネルギーと位置エネルギーはたがいに移り変わっていくが、それらを合わせた総量(力学的エネルギー)は保存されることを理解できる。 【知識・技能】
4 5 6	『仕事と力学的エネルギーには、どのような関係があるだろうか。』 <ul style="list-style-type: none"> 物体に力を加えて移動させたとき、その力は物体に「仕事をした」と表現する。 仕事とは、他の物体を動かすためのエネルギーである。 小球の位置エネルギーが大きく、質量が大きいほど、木片にした仕事が大きくなる。 位置エネルギーが同じなら、傾きを大きくしても、木片にした仕事は変わらない。 	力学的エネルギーが大きければ、物体にする仕事も大きくなることを見いだすことができる。 【思考・判断・表現】
7	『滑車の使い方を工夫すれば、仕事の大きさを小さくできるのだろうか。』 <ul style="list-style-type: none"> 定滑車や動滑車を使っても仕事の大きさは変わらない。 定滑車や動滑車の数や組み合わせを変えたら、仕事の大きさは変わるのだろうか。 	仕事の原理が成り立つ場面を知り、どんな場合でも成り立つのかという疑問を抱き、実験方法を考えることができる。 【思考・判断・表現】
8 (本時)	<ul style="list-style-type: none"> 定滑車や動滑車の数や組み合わせを変えても、仕事の大きさは小さくならない。 少しでも小さい力でものを持ち上げたかったら、滑車をたくさん使えばいい。 	滑車を使ってものを持ち上げるとき、どのような方法を使っても、仕事の大きさは変わらないことを見いだすことができる。 【思考・判断・表現】
9 10	『さまざまに形態を変えると、エネルギーの総量は、どうなるのだろうか。』 <ul style="list-style-type: none"> エネルギーが変換されるとき、利用目的以外のエネルギーとなることがある。 エネルギーの変換前後でエネルギーの総量は変わらない。 熱は伝導、対流、放射という伝わり方をする。 	エネルギーは変換することができるが、変換の前後でエネルギーの総量は変わらないことを理解できる。 【主体的に学習に取り組む態度】

5 本時のねらい

動滑車や定滑車の組み合わせを変えたときの、加える力の大きさや、手を動かす距離に着目し、各々が実験をした結果を比べる活動を通して、滑車を使っても仕事の大きさは変わらないことを見だし、物体を持ち上げるときに滑車を使うことのメリットとデメリットについて考えて、目的をもって滑車を使うことが大事であることに気付くことができる。【思考・判断・表現】

6 本時の展開(7-8/10)

時	主な学習活動	研究内容(1)(2)(3)と関わって
<p>(前時) 導入</p>	<p>○ 前時とのつながりから、演示実験を見て仕事の原理をおさえる。</p> <ul style="list-style-type: none"> 物体を、直接、真上に移動させたとき、手が加えた力がした仕事の大きさを測定する。 物体を真上に移動させるが、定滑車を使って水平方向に引っ張ったとき、手が加えた力がした仕事の大きさを測定する。 物体を鉛直上向きに移動させるが、動滑車を使って鉛直上向きに引き上げたとき、手が加えた力がした仕事の大きさを測定する。 どのように力を加えても、手が加えた力がした仕事の大きさは変わらないことをおさえる。 <p>○ 課題を設定する。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; text-align: center;"> <p>滑車の使い方を工夫すれば、 仕事の大きさを小さくできるのだろうか。</p> </div>	<p>【研究内容(1)①】</p> <p>滑車を使った実験を導入で演示する。定滑車と動滑車の実験をすることで、仕事の原理が成り立つことをおさえる。滑車の数や組み合わせ方を変えることで仕事の大きさの変化に疑問と見通しをもたせる。</p> <p>【研究内容(2)①②】</p> <ul style="list-style-type: none"> 個別最適な学びになるように、導入の事象から、自分の疑問に合わせて実験方法を選択し、実験ができるようにする。 自分の実験の結果を、動画に残したり、表などに整理したりできるように、結果の整理の仕方を選択できるようにする。 協働的な学びになるように、仲間の実験の結果をもとに、比べたり、関係付けたりする考え方ができるように、結果をロイロノートで集約したり、班内や他の実験をやった生徒と交流する時間を確保したりする。その中で、各々の思考の流れに応じて再実験を行ったり、日常生活につながっている事象について考えたりできるような机間指導をする。
<p>展開</p>	<p>○ 実験方法を考え、予想、仮説を立てる。</p> <ul style="list-style-type: none"> 各々で追究したいことを考え、実験方法を計画する。 自分が考えた実験方法に対する、予想と仮説を立てる。 <p>○ 実験をする。</p> <p>※変える条件(動滑車の数、定滑車の数、動滑車と定滑車の組み合わせ方おもりの質量)</p> <ul style="list-style-type: none"> 追究したい内容が似ている生徒の集団で実験をする。 追究したい内容が似ている生徒の集団の中でも、さらに小集団(ペア)になり、実験を進める。 <p>○ 結果を整理する。</p> <ul style="list-style-type: none"> 結果を動画で記録する。 物体にかかる力の大きさと物体が移動した距離、手が加えた力の大きさと手を動かした距離を記録する。 結果の記録から、仕事の大きさを求める。 	<p>【研究内容(3)】</p> <p>本時を振り返る視点を以下の2点に設定する。</p> <ol style="list-style-type: none"> ① 課題の答え ② 学んだこと(変容、深まり、日常とのつながり)
<p>(本時)</p>	<p>1 各々の結果を発表する。</p> <ul style="list-style-type: none"> 実験の様子と動画と、実験結果から求めた仕事の大きさをロイロノートの「提出箱」に集約する。 <p>2 考察をする。</p> <ul style="list-style-type: none"> 自分が行った実験の結果と、仲間の行った実験の結果をもとに、班内で交流をする。 班ごとに意見をまとめて発表をする。 誤差の扱い方について考える。(必要に応じて再実験をする。) 滑車を使うことのメリットやデメリットについて考える。 <p>3 終末の事象について考える。</p> <ul style="list-style-type: none"> 本校の体育館の修繕工事に使われていたクレーンの様子を見る。 クレーンを用いるときのメリットやデメリットについて考える。 	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; text-align: center;"> <p>自分の思考の流れに応じて、 思考を深める。</p> </div>
<p>評価</p>	<p>4 本時の学習を振り返る。</p> <ul style="list-style-type: none"> 課題の答えとなる文章と自己の考えの変容や見方・考え方の深まり、日常とのつながりを視点として振り返る。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>滑車を使っても、仕事の大きさを小さくすることはできない。しかし、動滑車を使えば、力の大きさを小さくすることができる。ただし、力の大きさを小さくした分、手を動かす距離が長くなる。 滑車にはメリットもデメリットもある。これを活用する場面を考えて、上手に使うことが大切だと思った。</p> </div>	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>【評価規準】</p> <p>滑車を使って、物体を持ち上げるとき、どのような方法を使っても仕事の大きさは変わらないことを実験結果から見だし、目的をもって道具を選択することが大事であることに気付く。</p> <p>【思考・判断・表現】</p> </div>



音樂科



Music

＜全校研究主題＞

**自分のよさや可能性を広げ、
主体的に学びに向かうことのできる生徒の育成
～個別最適な学びと協働的な学びを通して～**

＜音楽科の目標＞

表現及び鑑賞の幅広い活動を通して、音楽的な見方・考え方を働かせ、生活や社会の中の音や音楽、音楽文化と豊かに関わる資質・能力を次のとおり育成することを目指す。

【知識及び技能】

曲想と音楽の構造や背景などとの関わり及び音楽の多様性について理解するとともに、創意工夫を生かした音楽表現をするために必要な技能を身に付けるようにする。

【思考力、判断力、表現力等】

音楽表現を創意工夫することや、音楽のよさや美しさを味わって聴くことができるようにする。

【学びに向かう力、人間性等】

音楽活動の美しさを体験することを通して、音楽を愛好する心情を育むとともに、音楽に対する感性を豊かにし、音楽に親しんでいく態度を養い、豊かな情操を培う。

＜生徒の実態＞

- ・曲想と、音楽を形づくっている要素や記号との関わりに興味関心をもち学ぶことができる生徒が多いが、次の題材の活動に活用しようとする意識が弱い。
- ・音楽を形づくっている要素やそれらが生み出す特質や雰囲気よさを感じることはできるが、根拠をもってそのよさを伝える姿は、個人差が大きい。
- ・音楽に興味や関心をもち、一つの音楽表現をつくりだそうと、自分から音楽に関わろうとする姿が増えてきた。しかし、既習の知識や技能を活用したり、自分の思いや意図を明確にもったりして音楽に関わる姿は少なく、音楽や言葉で自分の学びや思いを表現しようとする力に弱さがある。

＜目指す生徒＞

知覚したことと感受したことの関わりについて思いや願いをもち寄り、既習の知識や技能を拠り所として、仲間と一緒に演奏したり話し合ったりすることを通して、自分の音楽の高まり、考えの深まりを実感し、そのよさを音楽や言葉で豊かに表現しようとする生徒。

＜研究主題＞

**音楽のよさを
豊かに表現しようとする生徒の育成**

＜研究仮説＞

題材の導入や音楽との出会いの工夫をすることで、憧れや学習の見通しをもつことができる。また、既習の知識や技能、感受した思いや願いをもち寄った協働的な学びの工夫をすることで、音楽的な見方・考え方を働かせた、新たな聴き方や味わい方を学ぶことができるようになる。さらに、振り返りの視点や方法を工夫することで、学びのよさや音楽のよさをさらに深め、音や言葉で豊かに表現しようとする生徒を育成することができる。

<p>研究内容（1） 興味・関心を高め、学びの見通しをもつことができる導入の工夫</p>	<p>研究内容（2） 自分のよさや可能性を広げる学習活動の工夫</p>	<p>研究内容（3） 自分のよさや可能性に気付くことができる振り返りの工夫</p>
<p>憧れや見通しをもたせたり、学びを連続発展させたりするための題材や単位時間の導入の工夫</p>	<p>①一人一人に思いや願いをもたせるための指導の工夫 ②表現を高めるため、互いの思いや考えを深めたり、広げたりする場や交流の工夫</p>	<p>単位時間の学びを実感し、題材を通しての学びを言語化するための自己評価と相互評価の工夫</p>

音楽のよさを

豊かに表現しようとする生徒の育成

1 研究仮説

題材の導入や音楽との出会いの工夫をすることで、憧れや学習の見通しをもつことができる。また、既習の知識や技能、感受した思いや願いをもち寄った協働的な学びの工夫をすることで、音楽的な見方・考え方を働かせた、新たな聴き方や味わい方を学ぶことができるようにする。さらに、振り返りの視点や方法を工夫することで、学びのよさや音楽のよさをさらに深め、音や言葉で豊かに表現しようとする生徒を育成する。

2 研究内容

<研究内容(1)>

興味・関心を高め、学びの見通しをもつことができる導入の工夫

①憧れや見通しをもたせたり、学びを連続発展させたりするための題材や単位時間の導入の工夫

【1年生音のつながり方の特徴の実践】

教材：「君をのせて」(歌唱)「My Melody」(創作)

1年生の創作では、導入において教師が作った旋律を提示し、どんなイメージをもつか話し合った。実際にイメージした場面と照らし合わせることで、なぜそう聴こえたのか、またはなぜそう聴こえなかったのかを考え、前時に学んだ「跳躍進行・順次進行」「上行・下行」の特徴を確認をした。

A [卓球で球が弾みながら転がっていく様子]

- ・音が離れていて球が弾んでいる感じがする。
- ・音が上がるから、明るく楽しそう。

B [蜂蜜をかけたサツマイモを食べた時の感動]

- ・隣同士の音が並んで穏やかな感じ。とろりとした蜜を表しているのかな。
- ・音が下がるから垂れていく蜜の感じはするけど、おいしい感動よりどこか落ち着いた感じがするなあ。

自分の表したい思いやイメージをしっかりとものが活動の軸となるため、旋律から場面をイメージできる楽しさを味わわせたいと考えた。

単位時間の見通しをもつには有効であったが、時間の配分を考える必要があった。

<研究内容(3)>

自分のよさや可能性に気付くことができる振り返りの工夫

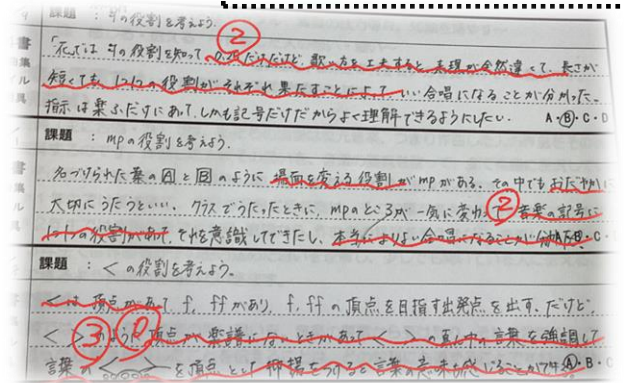
①1時間の学びを実感し、題材を通しての学びを言語化するための自己評価と相互評価の工夫

【3年生記号の役割の実践】

教材：「花」「名づけられた葉」(歌唱)

振り返りをロイノートで提出させ、右のような観点で価値づけをしたものを返却した。

- ①自分の言葉で学びを書く。
- ①変容や深まりの実感。
- ②そのよさや楽しさの実感。
- ③新たな気づき、課題。
- ④興味関心の高まり。
- ⑤その他



また、次の時間の導入で紹介することで、学びの中身を共有するだけでなく、振り返りの書き方をお互いに学べるようにした。

このような実践を行うことで、題材最後の振り返りでは、授業後にはなかった新たな学びが付け加えられていた。

<<授業後の振り返りより>>

ところどころにあるmpは、緊張感を生み出すための役割がある。

<<題材最後の振り返りより>>

緊張感を出すときには、mpが大切で弱く声を出すけど、発音ははっきりと出すこと。そうすることによって、緊張感を生み出すことができる。…後略

振り返りの内容で、生徒の学びを価値付けることにより、今後、どんなことを書いていくのかという、学びの視点を広げることもつながった。また振り返りの紹介を行うことが、もう一度学び直しの場となると共に、言葉によってそのよさや効果を実感することにつながった。

3 おわりに

音楽は音を聴いたり、音で表現したりする教科であるが、そのよさを伝えるのはやはり言葉だと考える。捉えたよさをもう一度言葉にすることで、学びをさらに深めることができる。改めて、言語化することを大切にしていきたい。

第2学年 音楽科学習指導案

日時：令和5年11月2日(木)
第5校時 13:25～14:15
学級：2年1組
場所：音楽室
授業者：濱 敦子

1 題材名

『郷土芸能を受け継ごう ～郡上節～』

2 題材について

新型コロナの影響で、中止や縮小開催がされてきた郡上おどりが今年4年ぶりに通常開催された。また昨年は、縮小開催の中、「郡上おどり保存会」の創立100周年という大きな節目も迎えた。踊りの起源は江戸時代ではあるものの、「悪習」との圧力を受けたり、踊りや歌が乱れたりした時代があったこと、そしてそんな時こそ、根強くこの地域文化を健全な形で後世に残そうと尽力してみえた保存会の存在があった。

このような歴史ある郡上踊りが昨年、「ユネスコ無形文化遺産」に登録された。そのため、今年の開催は、一層喜びや誇りに包まれた活気ある夏となった。しかし、これから100年先の「郡上おどり」を考えた時、今では全国的に有名になったその一方で、「地元の踊り離れ」「お囃子の担い手不足」などが問題としてあがっており、この伝統文化を残すための取組が始まっている。本校がお世話になっている「八幡おはやしクラブ」の存在も大きい。今の生徒たちがこの「郡上おどり」の継承者となる。「戦前はみんなが踊りながら歌うことができた」と聞く。子どもの頃から慣れ親しむことこそ、この無形の遺産を受け継ぐための第一歩と考える。

本題材では、今までとは違った角度から郡上節に触れることで、この地元の伝統文化への興味・関心を高め、さらに身近なものとしていきたい。それが、「自分たちの地域文化である」という自覚につながると共に、この文化を大切にしていきたいという思いをもつきっかけになればと思う。

音楽の授業において、1年生「日本の民謡」の学習では、「かわさき」をとりあげ、「もと唄」と「返し」に分かれて唄うことで、合唱とは違った発声法を学んだ。2年生の「世界の諸民族の音楽」では、声の音色に着目し、その地域の暮らしや文化と結び付けながら鑑賞する中で、知覚したことと感受したことの関わりについて考えてきている。本題材では、唄い手による声や唄い方、返しの役割などに着目し、声から感じるよさを味わったり、唄い手と囃子方の伴奏のちがいが醸し出される雰囲気や歌詞と共に味わったりする中で、そのよさを感じる根拠を言葉にする。今までとは違った聴き方で、じっくり郡上節に耳を傾けることで生まれる新しい気付きの中から、踊りの時とは違った郡上節のよさを味わわせたい。

3 研究に関わって

(1) 研究内容(1)について

本時の導入において、3人の唄い手による「かわさき」を聴き比べる。声や唄い方から伝わるよさをじっくり聴き味わうことで、「音楽(音)」を通して郡上節のよさを味わうという課題につなげていく。

(2) 研究内容(2)について

郡上節全10曲の中から、本時では囃子方の伴奏の組み合わせの違いを視点として4曲をとりあげる。学習の個性化を図る手立てとして、本時ではそれぞれの特徴をつかんだ後、一人一人がその中から、よさを感じ説明したいと思った曲を1曲選ぶ。また、第2時では、その特徴やよさを学び合うために、同じ曲を選んだ生徒同士で交流をする。同じ土台の上で、仲間から新たな聴き方や感じ方を学ぶことで、1曲をより深く聴き味わえると考えた。

また、本題材ではおはやしクラブの方の思いを知ることで、郡上節に込められる思いを重ね合わせて聴き味わいたい。この保存会の方に取材した言葉も「多様な他者との協働」と捉え、協働的な学びとして位置付ける。

(3) 研究内容(3)について

授業の始めに仲間の振り返りを紹介し共有することで、学びを言語化していく表現が高まると考える。本題材では、新たに気付いた郡上節のよさや味わい方をお互いに共有していきたい。

本時では、最後にロイロノートに記入をし、書けた仲間同士で生徒間交流を行うことで、共有していく。

4 題材指導計画

唄い手や囃子方から醸し出される郡上節の特徴や、伝承されていく苦労や尊さを理解すると共に、伴奏の囃子の構成の違いによるよさに気づき、自分たちの郷土芸能に誇りをもったり、生活や地域における郡上節の意味や役割について考えたりしようとする態度を養う。

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
<p>・曲想と囃子方の伴奏の構成の関わりについて理解すると共に、郡上踊りの文化や歴史について理解している。【知識・技能】</p>	<p>・郡上節の唄い手や囃子方の音色、構成を知覚し、それらの働きが生み出す特質や雰囲気を感じながら、知覚したことと感受したこととの関わりについて考えると共に、曲や演奏に対する評価とその根拠について考え、音楽のよさや美しさを味わって聴いている。</p> <p>・生活や地域における郡上節の意味や役割について考え、そのよさや美しさを味わって聴いている。</p>	<p>・郡上節のよさを味わい、そのよさを言葉で表現したり、仲間と交流したりする活動を楽しみながら、鑑賞の学習活動に取り組もうとしている。</p>

時数	主な学習活動	評価規準
1 本時	<p>『郡上踊りのよさを、「音楽」を通して味わおう。』</p> <ol style="list-style-type: none"> 郡上踊りについて話し合う。 唄い手による「かわさき」を聴き比べ、それぞれのよさを話し合う。 伝承の難しさ、受け継ぐ人の思い、返しの役割 囃子方の伴奏の構成による曲の雰囲気を、歌詞と共に味わう。 A 三味線、笛、太鼓 → 「春駒」 B 太鼓 → 「やっちく」 C 唄のみ → 「古調かわさき」 D 柏子木 → 「まつさか」(最後に踊る曲) そのよさを一番伝えたいと思った曲を1曲選び、知覚と感受を関連させ、曲のよさを言葉にまとめる。 1時間をふりかえる。 	<p>唄い手や囃子の伴奏の違いによる郡上節を聴き比べることから郡上節のよさを味わい、主体的に鑑賞の学習活動に取り組もうとしている。 【主体的に学習に取り組む態度】</p>
2	<p>『自分の感じたよさを、根拠をはっきりさせて伝えよう。』</p> <ol style="list-style-type: none"> 前時の感想を紹介。 紹介文を書く。 同じ曲同士で交流する。 仲間のよさを自分の紹介文に取り入れ、仕上げる。 自分の選んだ曲を聴き味わう。 	<p>音楽を形づくっている要素や要素同士の関連を知覚し、それらの働きが生み出す特質や雰囲気を感じながら、知覚したことと感受したこととの関わりについて考えると共に、曲や演奏に対する評価とその根拠について考え、音楽のよさや美しさを味わって聴いている。【思考・判断・表現】</p>
3	<p>『郡上節の伴奏の構成による違いを味わおう』</p> <ol style="list-style-type: none"> 同じ曲のグループ同士で、伝えたいよさをまとめる。 根拠をはっきりさせながら、自分たちの感じたよさを伝える。 ・仲間の発表を聞き、その曲のよさを聴き味わう。 ワークシートに、新しく知った郡上節のよさを書き入れる。 「郡上おどり保存会」創立100年について、その歴史と共に保存会の方の思いを知る。 単元を通しての振り返りを書く。 	<p>唄い手や囃子方から醸し出される郡上節の特徴や、伝承されていく苦労や尊さを理解している。【知識・技能】</p>

5 本時のねらい

郡上節の唄い手や囃子方の音色、その組み合わせが醸し出す特徴や雰囲気味わう活動を通して、そのよさや特徴を感じ取ろうとしている。【主体的に学習に取り組む態度】

6 本時の展開 郷土芸能を受け継ごう（1/3）

時	主な学習活動 f	研究内容（1）（2）（3）と関わって
導入	<p>1. 唄い手による「かわさき」を聴き比べ、そのよさを話し合う。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○故坪井三郎さん（郡上節名人） ○故後藤直弘さん（八中お囃子講師） ○故中村清悦さん（教科書CD 日本民謡協会名人） <ul style="list-style-type: none"> ・聴き比べてみると同じ曲、同じ発声でも、声の質、唄いまわしなど、それぞれ違ってそれぞれによさがあるなあ。 ・かえしの役割も大切なんだなあ。 <p>2. 課題を設定する</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px 0;"> <p>郡上節を通して、よさや特徴を味わおう。</p> </div> <ul style="list-style-type: none"> ・全部で10曲あることを確認する。 ・庶民の生活、郡上の名所や自慢、歴史など、1曲1曲に厳選された歌詞があり、地元の人がみんなて踊れるように…という思いが込められているんだなあ。 	<p>【研究内容（1）】</p> <p>聞けば聞くほど味わいのある正調かわさき、どこか郡上節を楽しむかのような個性あるかわさき、民謡のプロが歌うかわさき。そんな三種三様の「かわさき」を比べて聴くことで、本時の「音楽（音）」を通して郡上節を味わう」という課題をつかませる。</p>
展開	<p>3. 囃子方の伴奏に着目して聴いてみよう。</p> <p>囃子方の伴奏の構成による曲の雰囲気の違いを知る。</p> <ul style="list-style-type: none"> A：三味線、笛、太鼓 → 「春駒」 B：太鼓 → 「やっちく」 C：唄のみ → 「古調かわさき」 D：拍子木 → 「まつさか」（最後に踊る曲） <p>4. よさを伝えたいと思った曲を1曲選ぶ。</p> <p>ブースを回りながら、伴奏による曲の雰囲気の違いを、歌詞と共に味わいながら聴き、4曲の中から1曲選ぶ。</p> <p>5. 選んだ曲について、感想を書く。</p> <p>選んだ曲のよさとその根拠をはっきりさせて感想メモを書く。</p> <div style="border: 1px dashed black; padding: 5px; margin: 10px 0;"> <ul style="list-style-type: none"> ・三味線や笛が入ると華やかな感じで、町が活気にあふれた様子が浮かんた。 ・「やっちくサッサ」という返しの声と「ドンドンドン」という大太鼓の音が力強く、太鼓と唄がよくあっていた。郡上一揆の歌詞もあるので、大勢の農民たちの声を表していると思った。 ・囃子がないと、華やかさはないけれど、何人かで唄う「返し」の音が聞こえてきて、唄だけで力強く進んでいると思った。静かな雰囲気だけど、身分関係なくたくさんの人が唄も唄いながら、踊るを楽しむ様子が浮かんた。 ・拍子木の音だけで、踊りも最後になるので、少し寂しい感じがする。けれど拍子木の音が、とてもよく響いていて耳に残る。心地よい疲れの中で拍子木を叩きながら気持ちよさそうに歌っているようだった。 </div>	<p>【研究内容（2）①】</p> <p>興味をもった曲を選んで聴けるように4曲のブースを設ける。自由に聴き比べたり、1曲に絞って聴き込んだりするなど、一人一人のニーズに合わせて聴くことができる。また同じブースに集まった仲間との会話の中からも新しい聴き方を知るきっかけになると考える。</p> <p>【研究内容（3）】</p> <p>唄い方や歌詞、曲の構成のちがいなどに着目して振り返ることで、新しい郡上節のよさや味わい方を実感させたい。ロイロノートで振り返りを共有することで、本時の新たな気づきやよさを学び合い、単元を通しての振り返りに繋げていく。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px 0;"> <p>【評価規準】</p> <p>唄い手や囃子の伴奏の違いによる郡上節を聴き比べたり聴き味わったりしながら、そのよさや特徴を感じ取ろうとしている。</p> <p>【主体的に学習に取り組む態度】</p> </div>
評価	<p>6. 本時の学習を振り返る。</p> <p>ロイロノートに、本時の振り返りを書く。書き終わったら、生徒間交流でふりかえりを見合うことで、仲間の学びを知る。</p> <div style="border: 1px dashed black; padding: 5px; margin: 10px 0;"> <ul style="list-style-type: none"> ・これまで何気なく聞いていたけれど、伴奏のお囃子の組み合わせによって、曲の雰囲気がずいぶん違うことに初めて気づいた。これから踊り会場に行ったら、それぞれの曲の雰囲気を味わいながら踊ってみようと思った。 ・唄い手には女の人もいると聞いた。唄う人は、日によっても歌によっても違うから、これからは唄い手の声や唄い方にも耳を傾けてみようと思った。 </div>	



保健体育科



Health &
Physical Education

＜全校研究主題＞

**自分のよさや可能性を広げ、
主体的に学びに向かうことのできる生徒の育成
～個別最適な学びと協働的な学びを通して～**

＜保健体育科の目標＞

体育や保健の見方・考え方を働かせ、課題を発見し、合理的な解決に向けた学習過程を通して、心と体を一体として捉え、生涯にわたって心身の健康を保持増進し豊かなスポーツライフを実現するための資質・能力を次のとおり育成することを目指す。

【知識及び技能】

各種の運動の特性に応じた技能等及び個人生活における健康・安全について理解するとともに、基本的な技能を身に付けるようにする。

【思考力、判断力、表現力等】

運動や健康についての自他の課題を発見し、合理的な解決に向けて思考し判断するとともに、他者に伝える力を養う。

【学びに向かう力、人間性等】

生涯にわたって運動に親しむとともに健康の保持増進と体力の向上を目指し、明るく豊かな生活を営む態度を養う。

＜生徒の実態＞

- ・個人種目においては、運動の特性に応じた技能を身に付ける生徒が多いが、チーム種目においては、チームとしての動きは高まるが、一人一人の基本的な技能の定着に弱さがある。
- ・体の使い方に目を向けて自分の課題に気付く力に弱さが見られる。また、つかんだコツを仲間に伝えるなど、具体的に教え合う姿に弱さが見られる。
- ・体を動かすことが好きな生徒は多く、意欲的に取り組むが、よりよい動きを目指して粘り強く取り組むことには弱さがある。

＜目指す生徒＞

運動の特性に応じた技能を身に付けるために、運動習熟までの見通しをもち、自分の課題に気付くことができる。そして、その達成に向けて、自分の体の使い方やつかんだコツ、考えをもとに自分自身でよりよい動きにしたり、仲間のつかんだコツを自らの動きに取り入れて、仲間と共に課題解決に向けて試行錯誤を重ねながら、修正・補強したりして、よりよい動きを求め続ける生徒。

＜研究主題＞

よりよい動きを求め続ける生徒の育成

＜研究仮説＞

単元の導入で身に付けるべき技能と自己の実態から学びの見通しをもち、生徒自らが動きを高めるために課題解決に向けて試行錯誤を重ねながら動きをさらに修正・補強し、ICTを活用して自分の成長や課題を確かめられる振り返りを工夫することで、よりよい動きを求め続ける生徒を育成することができる。

研究内容（1） 興味・関心を高め、学びの見通しをもつことができる導入の工夫	研究内容（2） 自分のよさや可能性を広げる学習活動の工夫	研究内容（3） 自分のよさや可能性に気付くことができる振り返りの工夫
単元の導入で、身に付ける力と学びの見通しがもてる単元指導計画の生徒との共有と、毎時間の振り返りを活用した単位時間の導入の工夫	①個人やチームの習熟度に合わせた練習の場の設定の工夫 ②運動を見る視点を明らかにし、ICTを活用した学習活動の工夫	ICTを活用して課題の達成状況を確かめ、技能の伸びをチームで実感できる振り返りの工夫

よりよい動きを求め続ける生徒の育成

1 研究仮説

単元の導入で身に付ける力と自分の現状を踏まえた学びの見通しをもち、生徒自らが動きを高めるために課題解決に向けて試行錯誤を重ねながら動きをさらに修正・補強し、ICTを活用して自分の成長や課題を確かめられる振り返りを工夫することで、よりよい動きを求め続けることができる。

2 研究内容

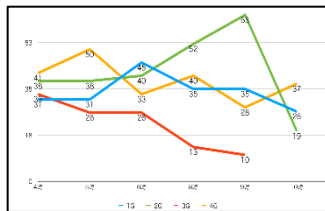
<研究内容(1)>

興味・関心を高め、学びの見通しをもつことができる導入の工夫

単元の導入で、身に付ける力と学びの見通しがもてる単元指導計画の生徒との共有と、毎時間の振り返りを活用した単元時間の導入の工夫

【2年バレーボールの実践】

単元の導入では、身に付ける力を生徒と共有し、単元計画を生徒と考える時間を設定した。そうすることで、生徒が目指す姿や見通しを意識し、意欲を高めて学習に取り組むことができると考えた。また、単元時間の導入では、前時までの技能の伸びを数値やグラフで示すことで、伸びる喜びを興味・関心につなげられると考えた。



<研究内容(2)>

自分のよさや可能性を広げる学習活動の工夫

①個人やチームの習熟度に合わせた練習の場の設定の工夫

【2年生走り高跳びの実践】

習熟度別の練習の場として、グループ練習とは別に、個別で練習できる特設会場を設置した。個人的なつまづきや調整に対応し、個別最適な学びの場を設定したことで生徒は技能を伸ばすことができた。

②運動を見る視点を明らかにし、ICTを活用した学習活動の工夫

【2年生走り高跳びの実践】



【グループ練習の様子】

走り高跳びの支柱の近くで仲間の動きを見られるようにし、「運動の見方・考え方」(指導案参照)を視点にして声かけができるようにした。また、動画も必要に応じて撮影できるようにした。そうすることで、仲間の意見をもとに、自分の動きを修正・補強できると考えた。また、単位時間の後半の記録会では、動画を撮影し、本時の振り返りで確認できるようにした。

<研究内容(3)>

自分のよさや可能性に気付くことができる振り返りの工夫

ICTを活用して課題の達成状況を確認、技能の伸びをチームで実感できる振り返りの工夫

【2年生走り高跳びの実践】

全体	走り高跳びの学習カード															
部分	助走 リスカルな助走				踏み切り 力強い踏み切り				空中動作 両足の大きなはさまみ動作				着地 安全な着地			
部分を支える要素	助走のスピードを上げる、着地の準備が整った状態				踏み切りの瞬間に力を強く出す、踏み切りの姿勢を安定させる				空中で両足を大きく広げる、空中での姿勢を安定させる				着地の瞬間に足を柔軟にする、着地の姿勢を安定させる			
評価項目	1	2	3	4	1	2	3	4	1	2	3	4	1	2	3	4
達成状況	4	5	4	5	5	5	4	5	4	4	4	4	5	4	4	4
達成率	4	2	5	4	5	5	4	5	4	4	3	4	4	5	5	5

自己の動画をもとにしながら技能ポイントに沿って振り返ることができるようにした。そうすることで、本時の学びを実感するとともに、自己の課題点を明確にし、次回の個別最適な学びにつなげていけるようにした。

3 おわりに

今回の研究に関わる体育の授業に関わるアンケートの結果は以下の通りであった。

	令和3年度	令和4年度 (前期)
粘り強く取り組むことができた	82%	93%
仲間とのかかわりの中で技能を伸ばせた	77%	84%

※「できた」「よくできた」と答えた生徒の割合

今回の研究を通して、技能の習得に対して、積極的に練習に取り組んだり、自ら仲間にもアドバイスを求めたりする姿が見られるようになった。アンケートの結果からも、「よりよい動き」を求めて、粘り強く取り組む生徒が増え、運動の苦手な生徒においても、自分の伸びを確かめながら、主体的に学びに向かえる生徒が育ってきたと考えられる。

第3学年体育科学習指導案

日 時	令和5年 11月2日(木)
	第5校時 13:30~14:20
学 級	3年2組
場 所	体育館
授業者	中澤 栄作

1 単元名

「バレーボール」 (8/15)

2 単元について

バレーボールといえば、豪快なスパイクを思い浮かべ、憧れる生徒も多い。また、ミスをして仲間とカバーし合いながら得点に繋がったり、常に仲間と声を掛け合ったりして、仲間との連帯感やラリー時の緊張感を味わえることも魅力である。

本校では、よりよい動きを求め続けるために、「運動の見方・考え方」を大切にしている。「運動の見方・考え方」とは、運動と部分の動きや動きを支える要素を構造的、総合的にとらえ、動きを高めるために運動をイメージしたり、運動を分析的にとらえて、技術ポイントを明らかにしたりすることである。そこで、バレーボールの運動と部分の動きや動きを支える要素を以下のように明確にして単元を構成することとした。

全体部分	1本目 → 2本目(トス) → 3本目(スパイク)			
部分	オーバーハンドパス	アンダーハンドパス	スパイク	ポジショニング
部分を支える要素	①ボールの落下点に素早く入る。	①ボールの落下点に素早く入る。	①ジャンプの最高点でボールをとらえる。	①自分の守備範囲を知る。
	②額の上で手、腕で大きな三角形を作る。	②肘を曲げないようにボールを面でとらえる。	②腕をスイングしてボールを打つ。	②ボールに合わせて移動した後、素早く自分のポジションに戻る。
	③ボールを手で包み込むように、額に引き付けてパスをする。	③ボールが当たった瞬間、両手の親指を下へ伸ばす。	③狙った方向に打つ。	③役割に応じて、自分のポジションに素早く移動する。
	④ねらった場所に山なりのボールを返す。	④ねらった場所に山なりのボールを返す。	④相手コートに空いているところを狙って返す。	④相手の攻撃に合わせてポジショニングする。

3 研究に関わって

(1) 研究内容(1)について

単元の導入では、目指す姿を生徒と共有する。その上で、試しのゲームの動画から現状を確かめ、身に付ける力を生徒と共に考え、その力を付けていく学習計画を共有することで、グループ全体で興味・関心を高めて学習できると考えた。また、授業の導入では、前時の振り返りから自己や集団の技能の伸びをグラフで確かめられるようにすることで、グループとしての高まりを実感し、本時の意欲へとつなげられると考えた。

(2) 研究内容(2)について

単元中間で、前時のゲームの動画を見て自己やグループの現状を確かめ、「運動の見方・考え方」の表から課題を明らかにする時間を設定した。そして、単元後半では、その課題達成のために練習方法を選択して取り組めるようにした。また、ゲーム記録をタブレットに入力し、相手コートへの返球率やセッター返球率、スパイク返球率を自動計算することで、計算する時間が短縮され、研究会や運動の時間の確保につながると考えた。

(3) 研究内容(3)について

自分自身の成長に気付くために、「運動の見方・考え方」を基にした自己評価だけでなく、仲間からの言葉による相互評価も大切にしたいと考えている。そこで、ロイロノートを学習カードとして活用するが、グループ内の交流での振り返りも大切にしていきたい。

4 単元のねらい

知識・技能	体力の高め方や、運動観察の方法を理解するとともに、作戦に応じた技能で仲間と連携して、3本目で強く返球したり、空いた場所に返球したりして、攻防をすることができる。
思考・判断・表現	攻防などの自己の課題を発見し、合理的な解決に向けて運動の取り組み方を工夫するとともに、自己や仲間の考えたことを他者に伝えることができる。
主体的に学習に取り組む態度	練習に積極的に取り組むとともに、作戦などについての話し合いに参加したり、仲間の挑戦を認めようとしたりして、自己の課題達成に向けてねばり強く取り組むことができる。

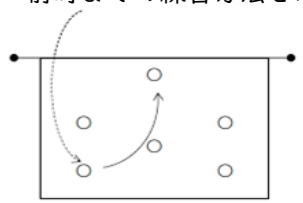
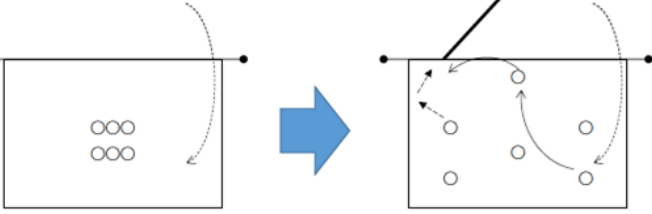
5 単元指導計画

時	学習内容	学習活動	評価規準
1	○めざす姿を理解し、それに向けて必要な技能や練習方法の見通しをもつことができる。	<ul style="list-style-type: none"> めざす姿と学習の進め方を理解する。 必要な技能や練習方法を理解し、単元の学習計画を作成する。 課題の立て方や自己評価の仕方を理解する。 	<ul style="list-style-type: none"> バレーボールに関連して高まる体力や運動観察の方法を理解している。【知識・技能】
2 3 4	○既習事項のアンダーハンドパス、オーバーハンドパス、スパイクの個人技能を高めることができる。	<ul style="list-style-type: none"> <準備運動> <ul style="list-style-type: none"> 直上パス(アンダー・オーバー) <計画会> <ul style="list-style-type: none"> 全体課題の確認 技術ポイントの確認 個人課題の確認 <前半練習> <ul style="list-style-type: none"> 練習(ペア) ※第2・3・4時 練習(グループ) ※第5・6・7時 動画撮影(必要に応じて) 	<ul style="list-style-type: none"> 仲間と教え合ったり、声をかけ合ったりしながら、合理的に練習に取り組むことができる。【主体的に学習に取り組む態度】 落下点に素早く入り、ねらった場所にパスすることができる。【知識・技能】
5 6 7	○セッターやアタッカーなどの自分のポジションに移動して、空いているスペースを狙って返すゲームができる。	<ul style="list-style-type: none"> <中間研究会> <ul style="list-style-type: none"> 自分の動きの確認 <後半練習> <ul style="list-style-type: none"> 練習(ペア) ※第2・3・4時 ゲーム ※第5・6・7時 動画撮影(必要に応じて) <反省会> <ul style="list-style-type: none"> 相互評価と自己評価 全体での振り返り 	<ul style="list-style-type: none"> サーブ後、自分のポジションに素早く移動することができる。【知識・技能】 空いているスペースを見つけて作戦を立てることができる。【思考・判断・表現】
8 (本時)	○単元前半でのゲームの動画を確認し、グループや自己の成果や課題を確かめ、課題解決のための練習方法を考えることができる。	<ul style="list-style-type: none"> <単元中間の振り返り> <ul style="list-style-type: none"> グループ、個人の成長を振り返る。 単元後半に向け、グループ、自己の課題を明らかにし、克服のための練習計画を立てる。 	<ul style="list-style-type: none"> 撮影した動画や仲間の意見をもとに、グループや自己の成果と課題から、実態に応じた練習計画を考案することができる。【思考・判断・表現】
9 10 11	○グループで考えた練習を通して、グループや個人課題を克服することができる。	<ul style="list-style-type: none"> <計画会> <ul style="list-style-type: none"> 全体課題の確認 個人課題の確認 <前半練習> <ul style="list-style-type: none"> 練習(グループ) <後半練習> <ul style="list-style-type: none"> ゲーム <反省会> <ul style="list-style-type: none"> 相互評価と自己評価 全体での振り返り 	<ul style="list-style-type: none"> 課題達成に向けて、練習方法を工夫することができる。【思考・判断・表現】 3本目で強い球や空いているところを狙った攻撃ができる。【知識・技能】
12 13 14	○これまでの練習の成果を発揮して、3本目で強く返球したり、空いているところをねらって返したりしてリーグ戦に取り組むことができる。	<ul style="list-style-type: none"> リーグ戦(4グループ総当たり) →15点制、3セットマッチ 	<ul style="list-style-type: none"> 自分の役割を果たし、3本目で強い球や空いているところを狙った攻撃ができる。【知識・技能】
15	○グループや個人の技能や、集団としての高まりを振り返ることができる。	<ul style="list-style-type: none"> グループごとに単元を通しての成果を振り返る。 	<ul style="list-style-type: none"> 自己のこれまでの学習の振り返りを行うことができる。【思考・判断・表現】

6 本時のねらい

単元前半でのゲームの動画や学習カードで本時までを振り返る活動を通して、グループや自己の成果と課題を確かめ、解決のための練習方法を考えることができる。【思考・判断・表現】

7 本時の展開(8/15)

時	主な学習活動	研究内容(1)(2)(3)と関わって
導 入	1 準備 支柱、ネット、ボール、テレビ 2 準備運動 体操、ペア練習、ランニングパス 3 全体計画会 ・前時までの自己評価の推移を確認する。 ・本時の課題点を明確にし、全体課題をつかむ。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 10px;"> グループの課題を見つけ、解決に向けた練習方法を考えよう。 </div> ・本時の活動の見通しをもつ	【研究内容(1)】 ・導入では、「運動の見方・考え方」の表に基づく自己評価の現状や、前時までのよいプレーと、失点するプレーの動画から課題を見つける。このような導入を行い、生徒一人一人が本時の見通しをもつことで、意欲をもたせたい。 【研究内容(2)】 ・成果と課題を個人で見つける時間を確保することで、一人一人が自己やグループの動きを振り返り、自分の考えをもって、グループで交流できるようにする。 ・学習カードで自分の習熟度を確認できるようにすることで、課題を見つけることが苦手な生徒も自分の考えがもてるようになる。 ・グループで動画を見る場合は、大型モニターで共通の動画を見る。そうすることで、一人一人が同じ動きを同じ視点で確認することができ、深まりのある交流になる。 ・ゲーム動画を見る際、チームの習熟度を確認する「運動の見方・考え方」の表を手元に置いて確認する。 ・グループで考えた課題解決の練習を実際にやってみることで、課題となっている動きが現れるかどうか確かめ合い、その動きの改善に向けて合理的な練習を考える。
	4 課題を見つけ、解決のための練習方法を考える。 ・動画と前時までの振り返りから課題を見つける。 ・個人で見つけた課題をロイロノートに記入する。 「スパイクを打つ前に、ネットに近いところで待っている」 「ボールの落下点に入れていない」 ・個人で見つけた課題をグループで交流する。 「○○くんが前衛の時、1本目がセッターに返っていない」 「□□さんと、△△さんの間にボールが落ちる」 「サーブで点を取られている」 ・課題解決の練習方法を考える。 ・前時までの練習方法を確かめる。  <p>〈1本目の精度に課題がある場合〉</p>  <p>〈ポジションへの移動後の攻撃へつなげる動き〉</p>	【研究内容(3)】 ・自分の見つけた課題や、改善のための練習方法やポイントをロイロノートにまとめることで、自己の学びを確かめる。 ・「この練習で技能を高める」と意欲をもって、次時からの学習に取り組めるようにする。 ・グループ内での話し合いへの参加の様子や、自分が気づけなかった課題や練習方法を交流して相互評価をする。
評 価	5 振り返り 個人とグループ課題、練習のねらい、ポイントを学習カードにまとめる。 6 全体反省会 ・課題と練習方法の発表 ・リーグ戦に向けた決意表明	【評価規準】 グループや自己の成果と課題から、実態に応じた練習方法を考えることができる。 <div style="text-align: right;">【思考・判断・表現】</div>



技術・家庭科



Technical course &
Home economics

＜全校研究主題＞

自分のよさや可能性を広げ、
主体的に学びに向かうことのできる生徒の育成
～個別最適な学びと協働的な学びを通して～

＜技術・家庭科の目標＞

生活の営みに係る見方・考え方や技術の見方・考え方を働かせ、生活や技術に関する実践的・体験的な活動を通して、よりよい生活の実現や持続可能な社会の構築に向けて、生活を工夫し創造する資質・能力を次のとおり育成することを目指す。

【知識及び技能】

生活と技術についての基礎的な理解を図るとともに、それらに係る技能を身に付けるようにする。

【思考力、判断力、表現力等】

生活や社会の中から問題を見いだして課題を設定し、解決策を構想し、実践を評価・改善し、表現するなど、課題を解決する力を養う。

【学びに向かう力、人間性等】

よりよい生活の実現や持続可能な社会の構築に向けて、生活を工夫し創造しようとする実践的な態度を養う。

＜生徒の実態＞

- ・これまでの生活経験と、授業で学習する基礎的・基本的な知識を関わらせて考えることができる。しかし、それを作業や活動に生かしたり、さらに技能として定着したりすることには弱さがある。
- ・仲間との交流活動において、仲間と主体的に意見や考えを交流することができるが、交流で得た考えを実際に自分の作業に生かして試行錯誤したり、自分の考えとかかわらせてよりよい解決方法を生み出したりすることに弱さがある。
- ・自分の生活におおよそ満足しているため、不便さを感じておらず、よりよい生活にするための視点があれば工夫することができるが、自ら考えを生みだすことに弱さがある。

＜目指す生徒の姿＞

よりよい生活の実現や持続可能な社会の構築に向けて、問題を見だし、課題を設定し、解決策を構想し、実践を評価・改善し、表現するなどして課題の解決に取り組む活動を通して、生活を工夫し創造しようとする生徒。

＜技術・家庭科研究主題＞

よりよい生活の実現や持続可能な社会の構築に向けて、
生活を工夫し創造しようとする生徒の育成

＜研究仮説＞

題材を通して見方・考え方を働かせながら生活や社会の中から問題を見だし、課題を設定し、自分に適した解決方法を考える。そして、その学習過程を評価し、改善する力を育むことで、よりよい生活の実現や持続可能な社会の構築に向けて、自ら生活を工夫し、創造しようとする生徒を育成することができる。

研究内容（1） 興味・関心を高め、学びの見通しをもつことができる導入の工夫	研究内容（2） 自分のよさや可能性を広げる学習活動の工夫	研究内容（3） 自分のよさや可能性に気付くことができる振り返りの工夫
生徒の身近な問題をもとに、貫く課題を設定し、見方・考え方の視点を明確にした題材の導入の工夫	①自分に適した解決方法を考えるための個別学習の工夫 ②お互いの解決方法を評価し、自らの考えを明確にしたり、広げ深めたりすることができる場や交流の工夫	①単位時間ごとの、振り返りの視点を与える工夫 ②題材を通して、自己の考えの変容を客観的に捉えることができる学習記録の蓄積

よりよい生活の実現や持続可能な社会の構築に向けて、生活を工夫し創造しようとする生徒の育成

1. 研究仮説

題材を通して見方・考え方を働かせながら生活や社会の中から問題を見だし、課題を設定し、自分に適した解決方法を考える。そして、その学習過程を評価し、改善する力を育むことで、よりよい生活の実現や持続可能な社会の構築に向けて、自ら生活を工夫し、創造しようとする生徒を育成することができる。

2. 研究内容

<研究内容（1）>

興味・関心を高め、学びの見通しをもつことのできる導入の工夫

①生徒の身近な生活や社会から見出した問題をもとに、貫く課題を設定し、見方・考え方の視点を明確にした題材導入の工夫

【2年生セパレートトーチの製作の実践】

2年生「エネルギー変換の技術」の題材を導入する授業において、実際のセパレートトーチを見せ、今と昔のエネルギー変換の技術を比較できる資料を提示した。

これによりエネルギー変換の技術も「社会からの要求」「安全性」「環境への負荷」「経済性」の4つの視点から、最適化されて今の製品があることを知り、題材を通して、何を学んでいくのか、どんな力をつけていくのかを知り、学びの見通しをもつことができた。

このように学びの見通しをもたせることで、興味・関心を高めつつ、本題材の学習の流れを理解させることができた。

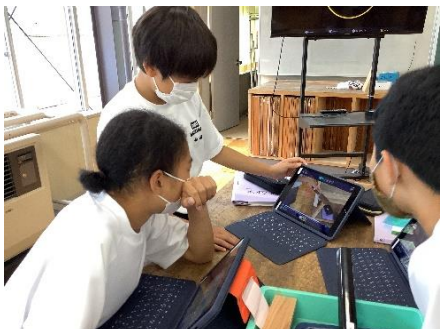
<研究内容（2）>

自分のよさや可能性を広げる学習活動の工夫

①自分に適した解決方法を考えるための個別学習の工夫

【1年生マルチラックの製作の実践】

タブレットを用いて、切断している姿を撮影し、客観的に自分の姿を見ることができるようにした。その姿を確認して、より正確に切断するためのポイントを理解し、改善につなげた。また、教材や教具など、自分に適した解決方法を考える姿が見られた。



②お互いの解決方法を評価し、自らの考えを明確にしたり、広げ深めたりすることができる場や交流の工夫

【2年生セパレートトーチの製作の実践】

班での交流を共有・拡散・収束・決定のプロセスで交流を行うことにした。

未来の日本のエネルギーミックスを考える授業において、今ある発電システムのメリット・デメリットを調べたり、交流して板書に位置付けたりし、全員に共通の土台をつくる。その土台の上で互いの意見のよさを認めながら交流し、自分なりの最適解を見つける。そして、その解に至るまでの自己の変容や、その自分の持った考えを確かなものにする。これによりそれぞれが考えた最適解に対して、さまざまな視点からの意見や質問が活発に出て、より自分の考えが明確になり、考えを広げ深める姿が見られた。

<研究内容（3）>

自分のよさや可能性に気付くことのできる振り返りの工夫

①単位時間ごとの振り返りの視点を与える工夫

- 単位時間の振り返りの視点を以下の3つとした。
- ・学習を通して自分はどんなことができるようになったのか、わかったのか（知識・技能）
- ・どう考えたのか、工夫したのか（思考・判断・表現）
- ・どう改善し、生活や社会にどう活かしていきたいのか。（主体的に学習に取り組む態度）

②題材を通して、自己の考えの変容を客観的に捉えることのできる学習記録の蓄積

ロイロノート上に題材指導計画と単位時間の製作の状況の変容や振り返りを写真や言葉で積み重ね、学びの記録を残すようにした。

以上の①、②より、自分が獲得した知識や、考え方を単位時間で終わらせることなく、つなげて考えたり、振り返ったりすることができ、次の時間の内容を確認したり、前時で学習した技能を振り返り、本時の学習で生かそうとしたりする生徒の姿が見られた。

3. おわりに

上記のような手立てで、導入、学習活動、振り返りを工夫することで、それぞれの活動がつながり、既習学習と関連付けて考える姿や、様々な視点からよりよい解決方法を求める姿が増えてきた。

今後も生徒自身が、生活や社会をよりよくするための課題を自ら設定し、生活を工夫し創造する生徒を育てていきたい。

第1学年 技術・家庭科学習指導案

日時:令和5年 11月2日(木)
第校時 : ~ :
学級:1年2組
場所:木工室
授業者:朴井 蒼紫

1 題材名

技術分野 A 材料と加工の技術「マルチラックの設計・製作」

2 題材について

技術分野 A「材料と加工の技術」のねらいについて学習指導要領には以下のように書かれている。

見方・考え方を働かせた実践的・体験的な活動を通して、生活や社会で利用されている材料と加工の技術についての基礎的な理解を図り、それらに係る技能を身に付け、材料と加工の技術と生活や社会、環境との関わりについての理解を深めるとともに、生活や社会の中から材料と加工の技術に関わる問題を見いだして課題を設定し解決する力、よりよい生活や持続可能な社会の構築に向けて、適切かつ誠実に材料と加工の技術を工夫し創造しようとする実践的な態度を育成することをねらいとしている。

本題材は、マルチラックの設計・製作を通して、材料に適した加工法や工具の安全かつ適切な利用について理解させ、基本的な知識及び技能を習得させる。また、製品の生産といった生活や社会における事象を、材料と加工の技術との関わり視点で捉え、生活や社会、環境との関わりについて学習する。また、使い手のニーズに合わせた作品づくりを行っているため、使用目的や使用場所に合わせた形状・寸法などを「社会からの要求」の視点として考え、作品の強度や精巧な材料の製造を「安全性」、使用する材料や部品の量などを「環境への負荷」、使用した材料や部品を使う上での材料費を「経済性」の視点として考える。これら4つの視点に着目し、よりよい生活の実現や社会の構築に向けて、生活を工夫し創造する資質・能力を育成したいと考えている。

本時においては、木材の塗装方法であるニス、オイル、ワックス、そして塗装なしの4種類の塗装のうち、自分のマルチラックの使用用途、使用場所に最適な塗装方法を考えさせたい。

3 研究に関わって

研究主題の「主体的に学びに向かうことのできる生徒」を、技術・家庭科では、よりよい生活の実現や持続可能な社会の構築に向けて、課題を設定し、解決策を構想し、実践を評価・改善し、表現するなどして課題の解決に取り組み、生活を工夫し創造しようとする姿と捉え、以下のように研究に取り組む。

(1) 研究内容(1)について

題材の導入時には、材料と加工の技術の学習を通して、「社会からの要求」、「安全性」、「環境への負荷」、「経済性」の4つの視点から技術について考えていくことを明確にする。そして、実際に製品を見て、何を学んでいくのか、どんな力をつけていくのかといった題材の見通しをもたせる。そして、題材を通して、自分の生活がよりよくなっていくことを実感できるように工夫する。

(2) 研究内容(2)について

それぞれの技能に合わせてジグや動画などの教材・教具を準備したり、自分がマルチラックを製作する上で加工方法や仕上げの方法について選択する場面を設定したりする。そして、自分の考えを仲間に伝え、互いの解決方法を材料と加工の技術との関わり視点で踏まえて意見を交流し、自分のマルチラックに最適な作業となるようにする。本時は、塗装方法を選択し、そこに至るまでの自己の変容や、自分の持った考えを確かなものにする。このような「共有」「拡散」「収束」「決定」の4つのプロセスを踏んだ交流の場を設けることで、その選択の意図を明確にし、より自分のマルチラックに最適な解決方法を考えさせる。

(3) 研究内容(3)について

振り返りにおいて、「生活と関わって」「4つの視点と関わらせて」などの視点を与え、単位時間の学びを明確にしたり、それを題材シートに貼り付け、自己の考えの変容を客観的に捉えられるように学習記録を蓄積したりする。

4 題材指導計画

○題材の評価基準

- ・生活や社会で利用されている材料と加工の技術についての科学的な原理・原則や基礎的な技術の仕組み及び、材料と加工の技術と生活や社会との関わりについて理解しているとともに、製作に必要な図をかき、安全・適切な製作や検査・点検等ができる技能を身につけている。**(知識・技能)**
- ・生活の中から材料と加工の技術に関わる問題を見いだして課題を設定し、解決策を構想し、実践を評価・改善し、表現するなどして、課題を解決する力を身につけているとともに、よりよい生活や社会の実現を目指して材料と加工の技術を評価し、適切に選択、管理・運用する力を身につけている。**(思考・判断・表現)**
- ・よりよい生活や社会の実現に向けて、課題の解決に主体的に取り組んだり、振り返って改善したりして、材料と加工の技術を工夫し創造しようとしている。**(主体的に学習に取り組む態度)**

貫く課題

よりよい生活を実現するために、どのような製品を設計・製作するとよいだろうか。

時数	主な学習活動	評価規準
1章 材料と加工の技術の原理・法則と仕組み		
1	『身の回りにはどんな材料と加工の技術の工夫があるのだろうか。』 ・身の回りの材料と加工の技術を調べ、【社会からの要求】【安全性】【環境への負荷】【経済性】の4つの視点からその場面に応じたものが選択されていることを知る。 【社会からの要求】【安全性】【環境への負荷】【経済性】	身の周りにある多くの製品に使用されている材料について着目し、その背景にある工夫を読み取り、材料と加工の技術の見方・考え方に気付くことができる。 【思考・判断・表現】
2	『材料にはどんな特徴があるのだろうか。』 ・材料の特徴を調べ、その特徴に合わせて製造・成形方法も選択されていることを知る。 【社会からの要求】【安全性】【環境への負荷】【経済性】	木・金属・プラスチック材料や加工の特性等の原理・法則と製造・成形方法の特徴などの基礎的な技術の仕組みを理解することができる。 【知識・技能】
3	『製品を丈夫にするためにはどうしたらよいのだろうか。』 ・割りばしを実際に組み立て、三角形の構造(トラス構造)を作ると丈夫になったり、割りばしを2つまとめた方が(部材を強くした方が)丈夫になったりすることを知る。 【安全性】	構造物を製作する活動を通して、構造や部材を丈夫にする方法について理解することができる。 【知識・技能】
4	『材料を加工する道具にはどんな工夫があるのだろうか。』 ・工具や器具を調べる活動を通して、加工にも切断、けがきなどたくさん種類があり、それぞれに使用する工具や器具が違うことを知る。 ・のこぎりは木材を削りながら切断していることを知る。 【社会からの要求】【安全性】	目的とする加工に応じた工具や機器を適切に選択し、安全に配慮していくことを理解することができる。 【知識・技能】
2章 材料と加工の技術による問題解決		
1 2	『自分の願いを実現するためには、どんな製品にすればよいだろうか。』 ・使用者、使用用途、使用場所を考える。 ・中に入れるもの大きさに合わせて形を考える。 【社会からの要求】【安全性】【環境への負荷】【経済性】	生活の中から材料と加工の技術に関わる問題を見だし課題を設定し、解決策となる収納ラックの材料、大きさ、形状、構造などを使用場所や加工方法などの制約条件に基づいて構想し、設計や計画を考えることができる。 【思考・判断・表現】
3 4	『製品を製作する上でどのような図が必要なのだろうか。』 ・全体の形を表すのに適した等角図や部品の大きさなどが分かりやすく、製図に適している第三角法を実際にかいてみる。 【社会からの要求】	図の役割や等角図、第三角法のかき方を知り、かき表すことができる。 【知識・技能】
5 6	『よりまっすぐにけがきするためにはどうしたらよいのだろうか。』 ・さしがねの使い方を知り、材料にけがく。 ・のこぎりの特徴を踏まえ、仕上がり寸法線と切断線の2本が必要ということを知る。 【社会からの要求】【環境への負荷】【経済性】	さしがねの使用方法を理解し、基準面から垂直に、切り代や削り代を一定の幅でけがくことができる。 【知識・技能】
7 8	『材料をよりまっすぐ切断するためにはどうしたらよいのだろうか。』 ・両刃のこぎりの使い方を知り、材料を切断する。 【社会からの要求】【安全性】	両刃のこぎりの切断の方法を知り、材料の固定や作業動作、工具の特徴を活かした使用方法が大切であることを理解し、けがき線に沿って正確に切断することができる。 【知識・技能】
9	『きれいにかなな削りをするためにはどうしたらよいのだろうか。』 ・かななの使い方を知り、材料を加工する。 【社会からの要求】【安全性】	かななの構造と部品加工の方法を知り、仕上がり寸法線に合わせて加工することができる。 【知識・技能】
10	『正確な組み立てを行うためにはどうしたらよいのだろうか。』 ・部品の大きさに間違いがないかを確認する。 ・どうすれば効率的に接合することができるのか、組み立ての順を考える。 【社会からの要求】	部品検査を行い、必要に応じた改善・修正を考え、組み立ての見通しをもつことで完成までの正しい手順について考えることができる。 【思考・判断・表現】
11 12	『どの接合方法が自分のマルチラックに最適なのだろうか。』 ・自分の使用用途や使用場所に合わせて最適なものを選ぶ。 【社会からの要求】【安全性】【環境への負荷】【経済性】	自分のマルチラックの用途を踏まえながら最適な接合方法について考えることができる。 【思考・判断・表現】
13 14 (本時) 15	『どの塗装方法が自分のマルチラックに最適なのだろうか。』 ・自分の使用用途や使用場所に合わせて最適なものを選ぶ。 【社会からの要求】【安全性】【環境への負荷】【経済性】	自分のマルチラックの用途を踏まえながら最適な塗装方法について考えることができる。 【思考・判断・表現】
3章 社会の発展と材料と加工の技術		
1	『これからの未来の材料と加工の技術をどのように利用していけばよいのだろうか。』 ・よりよい生活を目指すために、今ある技術を評価し、これからの未来を考えていく。 【社会からの要求】【安全性】【環境への負荷】【経済性】	材料と加工の技術を評価し、適切な選択、管理・運用、改良、応用の仕方について提言できる。 【思考・判断・表現】

5 本時のねらい

社会からの要求、安全性、環境への負荷、経済性の視点に着目して、様々な塗装方法を比較し、検討する活動を通して、各塗装方法の特徴やよさに気づき、自分のマルチラックに最適な塗装方法を考えることができる。

【思考・判断・表現】

6 本時の展開（14/15）

時	主な学習活動	研究内容(1)(2)(3)と関わって
導入	<p>1 4種類の各塗装が施されたモデルを見る。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「ニス」「ワックス」「オイル」「塗装なし」の製品の実物を見る。 ・モデルの使用場所等を確認する。 <p>2 課題を設定する。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; text-align: center;"> <p>どの塗装方法が自分のマルチラックに最適なのだろうか。</p> </div>	<p>【研究内容(1)】</p> <p>見方・考え方を想起させ、自分の製品を製作するための見通しをもたせる。</p> <p>【研究内容(2)②】</p> <p>○活動や発問を工夫して、4つのプロセスにより活発な交流の場を生み出す。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 共有：それぞれの塗装の特徴や個人の使用目的や使用場所を班員全員に共有する。そして一人一人のマルチラックに最適な塗装方法を考えるという共通の目的をもつ。 2. 拡散：話し合いのルールを設定しながら、互いの意見のよさを認めつつ、活発な意見交流を図る。 3. 収束：交流を踏まえ、自分のマルチラックに最適な塗装方法を考える。 4. 決定：その最適な塗装方法に至るまでの自己の変容や、自分のもった考えを確かなものにする。
展開	<p>3 活動内容を知る。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・4種類の塗装のそれぞれのよさを、実験や調べる活動を通して見つけ出す。 <p>4 実験や調べる活動を行い、それぞれの塗装の特徴をまとめる。</p> <ol style="list-style-type: none"> ①防水性・撥水性を調べる ②強度を調べる ③手触りを比べる（前時） ④それぞれの塗料のラベルを調べる（前時） ⑤前時に行った塗装のやりやすさ、自分が行った塗装の見た目 ⑥生活の中からヒントを見つけて出す（導入時のモデル提示とのつながり） <ul style="list-style-type: none"> ・表に①～⑥で見つけた特徴を班でタブレットのワークシートに記入し、情報を共有する。その後、班長は学級の共有ノートに班の情報を送り、塗装の特徴をまとめる。 <p>5 個人追究をする。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・自分の製作するマルチラックの使用用途、使用場所を確認し、それぞれの塗装は、「その条件に当てはめるとどのようなよさがあるのか、どのような問題点があるのか」を考え、自分の仕上げの方法を決める。 <p>6 交流する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・個人追究の内容を共有し、各塗装や仕上げの方法について検討し、様々な視点から質問をしたり、アドバイスをしたりして交流し、考えを確かなものにする。 <div style="border: 1px dashed black; padding: 5px;"> <p>Aさん：私は自分の部屋で、本棚として使おうと思っているので、塗装なしは本の出し入れで傷がつきやすいと考えました。</p> <p>Bさん：確かにそうだね、残りの3つはそれに比べて強度はあるよ。でもオイルは布に移ってしまう特徴があるから、本にも移るかもしれない。</p> <p>Cさん：ニスは塗膜が厚くて、本の取り出しやすさにも繋がるかもしれないね。</p> <p>Aさん：ワックスもニスほどじゃないけど、表面の傷はつきにくいよね。</p> </div> <p>7 決定する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・交流を踏まえ自分のマルチラックの使用用途、使用場所に最適な塗装を決定する。 	<p>【研究内容(3)①②】</p> <p>「生活と関わって」「4つの視点と関わらせて」「どう考えたのか」と振り返りの視点を明確にすることで、自己の学びの変容や深まりに気付くことができる。また、題材シートに立ち返ることで既習内容や次回の学びとのつながりに気付くことができ、自分のよさや可能性を実感できる。</p>
評価	<p>8 本時の学習を振り返る。</p> <div style="border: 1px dashed black; padding: 5px;"> <p>今日は、自分がどの塗装を選択するのかを決めた。初めは、見た目が好きでオイルを使って、木目が美しく見える棚にしたいと考えていたけれど、交流の中で、「本を置くのなら、オイルが移るかもしれない」というBさんの考えを参考にし、変更することにした。ニスは、強度が高く、本の出し入れによる傷を防いでくれるという安全性の視点からもよさがあり、前回の練習の時も上手く塗ることができたので、私はニスの塗装を選択することにした。次回からは、製品に塗装をしていくので、ムラができないように気を付ける。</p> </div>	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>【評価規準】</p> <p>自分のマルチラックの用途を踏まえながら、最適な塗装方法について考えることができる。</p> <p>【思考・判断・表現】</p> </div>



英語科



English

＜全校研究主題＞

**自分のよさや可能性を広げ、
主体的に学びに向かうことのできる生徒の育成
～個別最適な学びと協働的な学びを通して～**

＜英語科の目標＞

外国語によるコミュニケーションにおける見方・考え方を働かせ、外国語による聞くこと、読むこと、話すこと、書くことの言語活動を通して、簡単な情報や考えなどを理解したり表現したり伝え合ったりするコミュニケーションを図る資質・能力を次のとおり育成することを目指す。

【知識及び技能】

外国語の音声や語彙、表現、文法、言語の働きなどを理解するとともに、これらの知識を聞くこと、読むこと、話すこと、書くことによる実際のコミュニケーションにおいて活用できる技能を身に付けるようにする。

【思考力、判断力、表現力等】

コミュニケーションを行う目的や場面、状況などに応じて、日常的な話題や社会的な話題について、外国語で簡単な情報や考えなどを理解したり、これらを活用して表現したり伝え合ったりすることができる力を養う。

【学びに向かう力、人間性等】

外国語の背景にある文化に対する理解を深め、聞き手、読み手、話し手、書き手に配慮しながら、主体的に外国語を用いてコミュニケーションを図ろうとする態度を養う。

＜生徒の実態＞

- ・自分の考えなどを表現するために必要な語彙や文法事項の定着に不安のある生徒が多い。全体的に、書いたり、読んだりする際に、正しく理解、表現するための語彙力と文法力が不十分である。
- ・決められた会話や、原稿がある会話活動には安心して取り組めるが、即興的に相手の言ったことをもとに話したり、さらに詳しく聞き返したりして会話を深めることに弱さがある。
- ・一部の生徒は英語の表現能力に自信がなく、積極的に会話したり、自分の思いを書いたりすることをあきらめてしまう。

＜目指す生徒＞

コミュニケーションを行う目的、場面、状況に応じて、自分の考えを再構築する生徒

＜研究主題＞

**目的、場面、状況に応じて、
よりよいコミュニケーションを求める生徒の育成**

＜研究仮説＞

単元の導入で、終末の言語活動への興味、関心を引き出し、毎時間の振り返りとつないだ単位時間の導入を工夫することで、必然性をもって活動に臨めるようにする。また、生徒が個人で取り組むだけでなく、仲間と学び合う中間交流を仕組むことで、目的、場面、状況に応じて自分の考えや伝えたい情報を表現（形成）し、確かめ（整理）、必要に応じて再構築しながら、よりよいコミュニケーションを求める生徒を育成することができる。

研究内容（1） 興味・関心を高め、学びの見通しをもつことができる導入の工夫	研究内容（2） 自分のよさや可能性を広げる学習活動の工夫	研究内容（3） 自分のよさや可能性に気付くことができる振り返りの工夫
①生徒の「やりたい」「できるようになりたい」という思いを引き出す単元導入の工夫 ②毎時間の学びをつなぐ、単位時間の導入の工夫	①よりよい表現を求めるための個別学習の工夫 ②互いによさを学んだり、広めたり、確かめたりできる中間交流	①次時につながる振り返りの工夫 ②自分のよさを実感するための評価の工夫

目的、場面、状況に応じて、 よりよいコミュニケーションを求める生徒の育成

1 研究仮説

単元の導入で、終末の言語活動への興味、関心を引き出し、毎時間の振り返りとつないだ単位時間の導入を工夫することで、必然性をもって活動に臨めるようにする。また、生徒が個人で取り組むだけでなく、仲間と学び合う中間交流を仕組むことで、目的、場面、状況に応じて自分の考えや伝えたい情報を表現（形成）し、確かめ（整理）、必要に応じて再構築しながら、よりよいコミュニケーションを求める生徒を育成することができる。

2 研究内容

<研究内容（1）>

興味・関心を高め、学びの見通しをもつことのできる導入の工夫

①生徒の「やりたい」「できるようになりたい」という思いを引き出す単元導入の工夫

【3年生 Lesson2 の実践】

3年生 Lesson2 では、その次にある Project1 とつなげ、出口の活動を「話すこと（発表）」とし、「イベントで販売するために、地域の魅力が伝わる限定オリジナルアイスクリームを考え、班ごとにプレゼンをする」という目的、場面、状況を設定した。そこで、Lesson2 の導入時に教師が考えたオリジナルアイスの提案を行い、それについて意見を出し合う活動を行った。こうすることで、生徒の出口のイメージだけでなく、「自分ならこうする」という主体的に学びに向かう意欲を引き出すことができた。また、その際に「～で知られている」「～から作られている」など、本単元で学習する新出文法の受動態についても見通しをもち、より具体的に「こんな表現をしたい」という願いをもつことにつながった。

<研究内容（2）>

自分のよさや可能性を広げる学習活動の工夫

①よりよい表現を求めるための個別学習の工夫

【3年生 Lesson3 の実践】

Lesson3 では、単元のねらいを「ALT におすすめの絵本を紹介するために、小さい子どもが好きな絵本や童話について、内容や感想を整理し、簡単な語句や文を用いてまとまりのある文章を書くことができる」とした。書くことの活動において、生徒のつまずきとなってくるのが「何をどう書いていいかわからない」ということである。そこで、単元の中でも USE Read を中心に、ストーリーリテリングの活動を行った。教科書の内容をもとに、あらすじなどの事実と自

分の考えを整理して書く学習活動を位置付け、繰り返してきたことで出口の活動においても事実と考えが整理され、本の紹介を書くことができた。

【話すことに関する指導の実践】

話すことの指導において、これまでは自分の発音を確かめることができなかった。しかし、ICT を活用し、以下のアプリを活用することで、発音を確かめながら個人練習に取り組むことができた。

アプリ名	特徴	対象生徒	メリット	デメリット
①Clips	・動画上に、テキスト化された音声が表示される	・自分の様子を見ながら練習に取り組むたい生徒	・様子と発音を同時に確かめることができる。正確な発音か確かめることができる。	・音声認識が不安定であり、正しく認識されないことが多い。
②カメラ	・動画撮影機能	・音声や発音よりも話し方の練習がしたい生徒		
③VoiceTra	・聞き取った文章がテキスト化され表示される。	・正しい発音かどうかを確かめたい生徒	・同時通訳アプリであり、音声の認識が優れている。	・英語らしい発音でなくとも認識される。 ・音声のみ

<研究内容（3）>

自分のよさや可能性に気付くことのできる振り返りの工夫

②自分のよさを実感するための評価の工夫

【2年生 Project1 の実践】

本単元では、プレゼンテーションの発表を目的とし、「話すこと（発表）」の力を高めるために出口の活動を設定した。そして、聞き手に魅力を伝えるために必要な視点を提示し、その視点に沿ったチェックシートを作成し、自己評価をできるようにした。また、これを相互評価にも活用したことで、自分ができたことを実感するだけでなく、自己評価との違いから、「もっとこうした方がよい」「これはできている」といった学びの自己調整を図ることができ、自信や次への意欲につながった。

	Content (内容)	Structure (構成)
Basic	<input type="checkbox"/> 自分の「要」がわかる。 <input type="checkbox"/> 理由がわかる。	<input type="checkbox"/> Openingがある。 <input type="checkbox"/> Bodyがある。 <input type="checkbox"/> Closingがある。
Advanced	<input type="checkbox"/> 具体例を挙げている。 <input type="checkbox"/> 理由について、文を追加で詳しくしている。 <input type="checkbox"/> 理由について、文を追加で詳しくしている。	<input type="checkbox"/> 理由の順を保っている。 <input type="checkbox"/> 順序を表す表現を用いて理由を整理している。
Super	<input type="checkbox"/> 自分しか知らない情報をお話している。 <input type="checkbox"/> 相手に聞かせる表現がある。 <input type="checkbox"/> 相手がかかわる簡単な質問を使っている。	<input type="checkbox"/> 文をつなぐ表現を使っている。 <input type="checkbox"/> 接続して理由を整理している。 <input type="checkbox"/> Closingで「要」についての決まりが書かれている。

3 おわりに

生徒にとって、「こうしたい」という願いをはっきりとさせることが大切である。そのために目的、場面、状況を工夫したことや導入を工夫してきたことは非常に効果的であった。しかし、生徒の理解度や英語力の実態が大きく違うことはもちろん、表したい内容や、そのために必要な表現も大きく異なる中で、どんな全体指導をし、個別の手立てを講じるかについて、さらに考えていかなければならない。

第3学年 英語科学習指導案

日 時:令和5年 11月2日(木)
第5校時 13:30~14:20
学 級:3年1組
場 所:3年1組教室
授業者:飯塚 達也
Liu Zheng liang (ALT)

1 単元名

NEW CROWN 3 Lesson5 「 I Have a Dream 」

2 単元について

本単元において、生徒には「書くこと」の力をつけさせたいと考えている。学習指導要領には「書くこと」について、以下のように書かれている。

(5) 書くこと

ア 関心のある事柄について、簡単な語句や文を用いて正確に書くことができるようにする。

イ 日常的な話題について、事実や自分の考え、気持ちなどを整理し、簡単な語句や文を用いてまとまりのある文章を書くことができるようにする。

ウ 社会的な話題に関して聞いたり読んだりしたことについて、考えたことや感じたこと、その理由などを、簡単な語句や文を用いて書くことができるようにする。

単元の終末の活動として、「郡上のALTに、郡上かるたゆかりの地へ行ってみたいと思ってもらうために、かるたが表す場所やものの魅力を紹介する」という活動を設定した。これは目標「イ」に関わり、ALTに行ってもらいたい場所について、そこで味わうことのできる魅力的な事実と、自分の経験や感想を区別し整理しながら、まとまった内容の文章を書くことを目指す。

本時においては、「話すこと(やり取り)」に重点を置いた言語活動を設定している。郡上かるたを使って場所やものをより具体的に紹介するにはどのような内容を伝えればよいかを考え、やり取りすることを通して、事実や自分の経験などの内容や表現方法を獲得していく。そして、獲得した内容や表現方法を活かして、終末の活動での「書くこと」につなげていく。

3 研究に関わって

(1) 研究内容(1)について

単元の導入においては、郡上かるたを取り上げる。指定したかるたを英語で作ってみる活動を通して、複数の視点から対象のものについて説明ができることを実感させる。そこから終末の活動へと意識をつなげて、自分はどのかるたを用いて、どんな魅力を紹介しようと思うかを考えさせることで、「やりたい」「できるようになりたい」という思いを引き出す。

また、ピックアップカードを用いたりテリングの活動を帯活動として行うことで、写真等にある事実と、自分の考えを区別して伝えるイメージをもたせながら次時へ学びをつなげる。本時においては、前時に学習した本文の内容を、絵を用いて説明する活動を行う。

(2) 研究内容(2)について

本時においては指導の個別化を図るための手立てとして「ヒントカードの活用」「教師とのやり取り」「中間交流などの全体交流」「個人活動」を実施する。活動における目的、場面、状況に応じて、生徒自身がどんな内容を伝えるかを考える必要がある。そのための助けになるようなヒントカードを用意する。また、やり取りする中で教師が問いかけていくことで、表現内容を引き出す。個人活動では、内容を膨らませるために自分が必要な活動をしていく場を設ける。このように形成、整理、再構築の過程を経て、より魅力的な紹介ができるようになることを考えた。

中間交流では、取り入れるとよい表現を全体で共有したり、困ったことを仲間と共に解決をしたりしていくことで、お互いによりよい表現を目指して高め合うことができると考えた。本時では、活動の合間に中間交流を適宜実施していくことで、内容の充実を図る。

(3) 研究内容(3)について

次時につなげたり、自分のよさを実感したりするための評価の工夫として、活動中に作成したメモを最後に見返して振り返ることで、単位時間での自身の成長を実感できると考えた。単元を通して、活動を振り返ったメモを蓄積し、できるようになった表現を終末の活動で活用できるようにする。

4 単元指導計画

郡上の ALT に、郡上かるたゆかりの地へ行ってみたいと思ってもらうために、かるたを用いながら、郡上の魅力について、事実や自分の経験を整理し、簡単な語句や文を用いてまとまりのある文章を書くことができる。

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
<ul style="list-style-type: none"> ・関係代名詞の特徴やきまりを理解している。 ・絵札が表す場所や物について、より詳しく説明するために、関係代名詞を用いて書く技能を身に付けている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・郡上の ALT に郡上へゆかりの地へ行ってみたいと思ってもらうために、事実や自分の経験を整理し、簡単な語句や文を用いてまとまりのある文章を書くことができる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・郡上の ALT に郡上ゆかりの地へ行ってみたいと思ってもらうために、事実や自分の経験を整理し、簡単な語句や文を用いてまとまりのある文章を書くようとしている。

時間	学習内容	評価規準	
1	単元導入 <ul style="list-style-type: none"> ・指定した郡上かるたが表すことについて英語で紹介する。 ・単元について見通しをもつ。 	<ul style="list-style-type: none"> ・郡上かるたが表すことについて英語で紹介し、単元の見通しをもち、学習に向かおうとすることができる。 【主体的に学習に取り組む態度】	
2	GET Part1	<ul style="list-style-type: none"> ・教科書70ページの内容を理解する。 ・関係代名詞(that, which)の特徴を理解する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・本文の内容や関係代名詞の特徴を理解することができる。 【知識・技能】
3		<ul style="list-style-type: none"> ・教科書70ページの内容を復習する。 ・本文の内容を、絵を示しながらペアに説明する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・関係代名詞を用いて、本文の内容について説明することができる。 【知識・技能】
4	GET Part2	<ul style="list-style-type: none"> ・教科書72ページの内容を理解する。 ・後置修飾(関係代名詞が省略された形)の特徴を理解する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・本文の内容や後置修飾の特徴を理解することができる。 【知識・技能】
5 (本時)		<ul style="list-style-type: none"> ・郡上かるたゆかりの場所について、事実や自分の経験を伝えて、魅力を紹介する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・郡上かるたが表す場所についての事実や自分の経験などを加えてより具体的に伝えることができる。 【思考・判断・表現】
6	USE Read	<ul style="list-style-type: none"> ・教科書74～76ページの内容を、話の構成に着目しながら概要を捉える。 	<ul style="list-style-type: none"> ・本文の内容について、話の構成に着目しながら、概要を捉えることができる。 【知識・技能】
7		<ul style="list-style-type: none"> ・郡上かるたゆかりの食について、事実や自分の経験を、話したり書いたりする。 	<ul style="list-style-type: none"> ・郡上かるたが表す食の魅力を、事実や自分の経験を、伝わりやすいように整理して書くことができる。 【思考・判断・表現】
8	USE Write	<ul style="list-style-type: none"> ・イベントへ招待するためにメッセージや紹介状を書く。 	<ul style="list-style-type: none"> ・イベントへ招待するために、メッセージや招待状の書き方を理解することができる。 【知識・技能】
9	USE Speak	<ul style="list-style-type: none"> ・日本の中高生が関心のあることについてインタビューをし合う。 	<ul style="list-style-type: none"> ・対話文をもとにして、インタビューの仕方や答え方を理解することができる。 【知識・技能】
10	Take Action!	<ul style="list-style-type: none"> ・落とし物の連絡について聞き取る。 ・食事を勧める時や、承諾や断る時に用いる表現を理解する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・落とし物の連絡について聞き取ったり、食事を勧める時や承諾や断る時に用いる表現を理解したりすることができる。 【知識・技能】
11	Project2	<ul style="list-style-type: none"> ・自分が選択した絵札について紹介文を書くためのメモを作成する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・郡上かるたが表す郡上の魅力についての紹介文を書くためのメモを作成することができる。 【思考・判断・表現】
12		<ul style="list-style-type: none"> ・前時に作成したメモをもとにして、選択した絵札についての紹介文を書く。 	<ul style="list-style-type: none"> ・郡上かるたが表す郡上の魅力を、事実や自分の経験を整理して書くことができる。 【思考・判断・表現】
13		<ul style="list-style-type: none"> ・書いた紹介文をペアで読んでアドバイスし合い、より魅力を伝えるように見直す。 	<ul style="list-style-type: none"> ・郡上かるたが表す郡上の魅力についての紹介文に文を加えたり、内容を整理したりして、見直すことができる。 【思考・判断・表現】
14		<ul style="list-style-type: none"> ・前時の仲間のアドバイスをもち、前時に紹介文を推敲し、完成させる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・郡上かるたが表す郡上の魅力についての紹介文を、相手に伝えるように作成することができる。 【思考・判断・表現】

※評価規準について・・・上記の観点を主に評価していく。ただし、ねらいに即して生徒の活動の状況を確認に見届けて指導に生かすことは毎時間必ず行う。

5 本時のねらい

ALT のリュウ先生に郡上かるたゆかりの地へ行ってみようと思ってもらうために、郡上かるたが表す場所の魅力をペアでやり取りする活動を通して、紹介する場所についての事実や自分の経験などを加えてより具体的に伝えることができる。【思考・判断・表現】

6 本時の展開(5/13)

時	主な学習活動	研究内容(1)(2)(3)に関わって
導入	1 Small Talk 前時の学習内容の振り返り ・本文の内容を、絵を見せながらペアで説明し合う。 2 本時の活動に向けた教師と ALT とのやり取り ・郡上かるたの取り札を話題にしたやり取り。 T: Have you ever been there? A: No, I haven't. What do you recommend? T: This is... I have no idea, so please help me, everyone.	【研究内容(1)】 ・帯活動として絵を見せながら相手に説明するピクチャーテリングを行い、単元の終末の活動へと学びをつなげる。本時では、挿絵を示しながら読み取った本文の内容を説明し合う活動を行い、前時の学びと本時をつなげる。
	リュウ先生に郡上かるたゆかりの地へ足を運んでもらうために、何を伝えればよいだろうか？	【研究内容(2)】 ・自分で選んだかるたについて表現していく。かるたについて伝える内容を考える際に、必要に応じて活用できるヒントカードを用意する。 ・ペアで伝え質問し合うことで、表現する内容を膨らませていく。 ・教師が必要に応じて英語で質問することで、やり取りの中で表現内容を引き出せるようにもする。 ・個別学習では、活動内容が異なる3つの場を設ける。表現内容を増やすために、生徒が自分に必要だと思う活動を選択できるようにする。 ・中間交流では、取り入れていくとよい表現を全体で共有したり、伝えるのに困った表現を仲間と共に解決したりすることで、事実や自分の経験についての表現内容も増やしていく。
展開	3 活動1 ピクチャーテリング1 ・自分で選んだかるたが表す場所について、ワークシートにある視点をもとにメモを作成する。(形成) (メモ作成例) Itoshiroosugi feel nature very big tree Shirotori ・作成したメモをもとに、取り札を見せ、互いに質問し、ペアでよさを説明し合う。(整理) (発話例) This is the place you can feel nature. It's Itoshiroosugi. It's a very big tree. It's in Shirotori. (質問例) How tall is it? Can I go there by car?	【中間交流】 ・活動中に適宜行うようにする。 ・仲間の表現で取り入れていくとよいものを共有し、伝えたくても伝えられなかったものを解決する。
	4 活動2 課題に応じた個別学習 ・内容を増やすために必要なブースを選択し、やり取りしたり、メモを整理したりする。(整理・再構築) <ブース①:ペア練習> ・組んだペアで説明し合って、表現内容を増やす。 <ブース②:内容整理> ・見直したり、さらに調べたりして内容を整理する。 <ブース③:チャレンジ> ・リュウ先生に説明をしてみ、表現内容を見直す。	<抽出したい生徒> ・関係代名詞を用いている生徒 ・数値などを用いてより具体的に説明をしている生徒 ・自分の経験も表現している生徒
	5 活動3 ピクチャーテリング2 ・もう一度最初のペアで説明し、相互評価する。(再構築) (発話例) This is the place you can feel nature. It's Itoshiroosugi. It's a very big tree. <u>It's 24 meters tall. It's 1800 years old.</u> <u>It was very powerful.</u> It's in Shirotori. You cannot go there by car.	【研究内容(3)】 ・加筆部分を確認して、本時を通してできるようになった表現に着目させ、自分の成長を実感させる。 ・本時話したことが、終末の書く活動につながることを確認し、見通しをもたせる。
評価	6 振り返り ・これまでの活動を踏まえて、メモに加筆をして整理をする。 ・メモで増えた部分に赤で下線を引いて、本時できたことを振り返る。 (メモの整理・振り返り例) Itoshiroosugi feel nature very big tree Shirotori 24 meters tall 1800 years old very powerful cannot go by car 数字を入れてより具体的に説明することができた。	評価規準 郡上かるたが表す場所についての事実や自分の経験などを加えてより具体的に伝えることができる。 【思考・判断・表現】



美術科



Art

＜全校研究主題＞

**自分のよさや可能性を広げ、
主体的に学びに向かうことのできる生徒の育成
～個別最適な学びと協働的な学びを通して～**

＜美術科の目標＞

表現及び鑑賞の幅広い活動を通して、造形的な見方・考え方を働かせ、生活や社会の中の美術や美術文化と豊かに関わる資質・能力を次のとおり育成することを目指す。

【知識及び技能】

対象や事象を捉える造形的な視点について理解するとともに、表現方法を 創意工夫し、創造的に表すことができるようにする。

【思考力、判断力、表現力等】

造形的なよさや美しさ、表現の意図と工夫、美術の働きなどについて考え、主題を生み出し豊かに発想し構想を練ったり、美術や美術文化に対する見方や感じ方を深めたりすることができるようにする。

【学びに向かう力、人間性等】

美術の創造活動の喜びを味わい、美術を愛好する心情を育み、感性を豊かにし、心豊かな生活を創造していく態度を養い、豊かな情操を培う。

＜生徒の実態＞

- ・造形的な視点をもとに、自分自身の考えの根拠をもち、制作に生かそうとすることに弱さがある。また、上手く表現できないことが美術への苦手意識につながっている生徒が多い。
- ・自分が表したい思いをどう表現したらよいかかわからず、自分なりの答えをみつける楽しさを十分に実感できていない生徒も少なくない。
- ・自分の表したいことがあっても、その表現が上手くできるか自信がなく、試行錯誤を諦めてしまい、つくる喜びを実感できていない生徒が多い。

＜目指す生徒＞

表したい思いに向かって、造形的な視点で自分や仲間の表現を見つめる活動を通して、形や色彩のイメージを確かめたり、他者の表現を自分の作品にも取り入れたりして、自分が納得のいく表現になるように試行錯誤し、自分なりの答えをみつける楽しさやつくる喜びを感じながら、美しいものやよりよいものを求め続ける生徒。

＜研究主題＞

よりよいものを求め続ける生徒の育成

＜研究仮説＞

題材の魅力を感じることができる単元の導入や自己有用感をもつことができる単位時間の導入を工夫することで、自分が表したい思いをもち続けながら制作する。そして、様々な表現の仕方や表現のコツや考えを伝え合うなどの活動を通して、思いをどう表現すればよいかを考え、自分が納得のいく表現になるように試行錯誤しながら、自分なりの答えを見つめる楽しさやつくる喜びを実感することができれば、思いをもって、美しいものやよりよいものを求め続ける生徒を育成することができる。

研究内容（1） 興味・関心を高め、学びの見通しをもつことができる導入の工夫	研究内容（2） 自分のよさや可能性を広げる学習活動の工夫	研究内容（3） 自分のよさや可能性に気付くことができる振り返りの工夫
①題材の魅力を感じ、身に付ける力や学びの見通しをもつことができる題材の導入の工夫 ②造形的な見方・考え方ができている作品や気づきを認め、自己有用感をもつことができる単位時間の導入の工夫	①様々な表現の仕方や表現のコツの提示の工夫 ②表現を見つめ、互いの考えと表現を確かめたり、深めたり、広げたりする場の設定の工夫	制作の満足度や作品の変容から、できるようになったことや考えたことに気づき、自分なりの答えを見つめる楽しさやつくる喜びを感じることができる自己評価や相互評価の工夫

よりよいものを求め続ける生徒の育成

1 研究仮説

題材の魅力を感じることができる単元の導入や自己有用感をもつことができる単位時間の導入を工夫することで、自分が表したい思いをもち続けながら制作する。そして、様々な表現の仕方や表現のコツや考えを伝え合うなどの活動を通して、思いをどう表現すればよいかを考え、自分が納得のいく表現になるように試行錯誤しながら、自分なりの答えを見つける楽しさやつくる喜びを実感することができれば、思いをもって、美しいものやよりよいものを求め続ける生徒を育成することができる。

2 研究内容

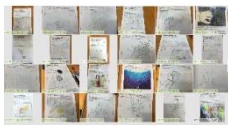
<研究内容(1)>

興味・関心を高め、学びの見通しをもつことのできる導入の工夫

①題材の魅力を感じ、身に付ける力や学びの見通しをもつことのできる題材の導入の工夫

【3年生私の心の中の世界(絵画)の実践】

単元の導入でパフォーマンステストを行い、感情を手で表すという課題を出し、生徒の実態把握を行った。ロイロノートの回答共有機能を使うことで多様な表現方法に触れることができた。



また、先輩の心象表現の絵画作品の鑑賞を行うことで、この単元の出口の作品から、心象表現について知り、自分達がこの題材で身に付ける力や見通しをもつことができた。

<研究内容(2)>

自分のよさや可能性を広げる学習活動の工夫

①様々な表現の仕方や表現のコツの提示の工夫

【3年生私を包み込んでくれたもの(工芸)の実践】 予想されるつまずきとして、

- ア) どこを、どのように、どれくらい彫ったらよいか分からない。
- イ) 様々な彫りや、深さによる印象の違いがイメージできない。

ということが考えられた。そこで、それを解決する為の手立てを準備し、本時に生徒自らが選択して本時の課題を解決できるようにした。



【彫りの紙を見て】

【タブレットの資料で】

【自分の練習材で】



【仲間に聞いて】



【先生に聞いて】



【参考資料で】

②表現を見つめ、互いの考えと表現を確かめたり、深めたり、広げたりする場の設定の工夫

【3年生私の心の中の世界(絵画)の実践】

仲間と交流することを通して、主題に合ったモチーフの構成や感情表現の仕方に気付き、主題と創造的な表現の工夫などについて考える時間を設けた。そして、グループで右図のような視点で、仲間の主題を聞き、自分だったら、こう描くという交流を行った。仲間からの質問で、自分の主題について深める姿や、様々な表現方法について、それぞれの意図を話し、タブレットを用いてアイデアを広げる姿が見られた。

①. 自分の主題について話す。「どんな心の中を表現したいか」をできるだけ詳しく話し、アイデアスケッチを見せ、今決まっている表現について話す。悩んでいることやアドバイスして欲しいことがあれば話す。

②. ①をもとに質問みんなで、決まっていることをもとに、より主題に合った表現にする為に、様々な造形的な視点のアプローチから、自分なるところを挙げる。という案を5分間出し続け、相手にできるだけわかりやすく伝えよう。

★話し手に、付け足しや、自分はこう思うというものがあれば、継続的にどんどん話していく。

★制作者は、なるほどなど思ったことなどをスケッチブックに★書いていく。

<研究内容(3)>

自分のよさや可能性に気付くことのできる振り返りの工夫

①制作の満足度や作品の変容から、できるようになったことや考えたことに気付き、自分なりの答えを見つける楽しさやつくる喜びを感じることができ自己評価や相互評価の工夫

振り返りでは、ロイロノート上に単元指導計画と単位時間の作品の変容や振り返りを写真や言葉で積み重ねる学びの記録を残す振り返りと「授業理解」と「制作満足」の2つの自己評価の観点を位置付けた。そうすることで、学びの見通しをもちながら納得のいく表現に向かい、自分の思考やつけた力が作品の色や形として、どのように表現されたのかを自覚できるようにした。単元を通して、試行錯誤する中での作品の変容や満足度を実感しながら、学びの手応えを自覚する姿が見られた。



3 おわりに

今回の研究では、導入や、学習活動、振り返りを工夫することで、生徒は自分のよさや可能性を広げ、主体的に授業に取り組み、よりよいものを求め続けることができるようになってきた。今後も生徒自らが「やってみたい」「できた」「次はこうしたい」と自分が表したい思いをもち続け、よりよいものを求め続ける生徒を育てていきたい。

あしがき

八幡中学校は、郡上おどり、鮎釣りなど伝統文化と豊かな自然に恵まれたふるさとの地にあります。生徒たちは、郡上おどりの伝統文化を学び、継承しようと活動したり、鮎釣りや川遊びを楽しんだり、様々なボランティア活動に参加したりと、文化、自然、人との豊かな関わりを重ねています。生徒たちには、これから先、どんな状況にあっても、そこで出会う人たちと協働し、よりよい社会を築く次世代の担い手になってほしいと願っています。そのために「チーム八中」として、研究主題に取り組んでまいりました。私たちの研究の歩みもまた、主体的・対話的で深い学びのあるものでした。そして、学び合う中で、自分のよさや可能性を広げ、授業づくりに挑み続けてまいりました。

本日、分科会やアンケートにて多くの皆様から頂戴したご意見をもとに、今後も生徒がよさや可能性を広げ、主体的に学びに向かうことができる授業づくりを求め続け、研鑽していきたいと考えております。

最後になりましたが、本校の研究推進にあたりまして、ご指導、ご支援をいただきました、美濃教育事務所、郡上市教育委員会の諸先生方に対し、厚くお礼申し上げます。今後も引き続き、ご指導、ご鞭撻いただきますようお願い申し上げます。

令和5年11月2日

郡上市立八幡中学校 教頭 河井 奈美

◇◇研究同人◇◇

校 長	日置 保次								
教 頭	河井 奈美								
研究推進委員長	鎗山 卓万								
	仲上 大雄	中澤 栄作	永田 貴大	原 英司	上野 智美				
	濱 敦子	上杉 高広	清水 啓太	鷺見 陽紀	下村 滉太				
	飯塚 達也	杜下 凌	朴井 蒼紫	松葉 春汰	名畑 亜美				
	須田 裕也	立石 敏彦	西脇 祐子	雪野奈々緒	成瀬 生長				
	山田 重之	粥川 法子	劉 正梁	此島由多子	此島 有里				
	高平 光浩	武田 春美	濱田 寿子	松井美奈江					

(令和4年度)

國居 正幸	村土 尚	曾我 邦彦	日置知香子	粥川 文恵
水野 奈月	足立 裕城	三宅 祐渡	川尻 裕一	日置 貢
伊藤 一美	谷口恵美子	和田ひろみ		

